

【Ⅳ 参考資料】

1 島根原子力発電所の状況

(1) 島根原子力発電所の施設状況

号機	施設状況	
	年月日	概要
1号機	2017.4.19～	廃止措置中
	2025.5.16～2025.10.15	第6回定期事業者検査
2号機	2025.1.10～	営業運転再開
	2026.2.9～(2026.9.4)	第18回定期事業者検査
3号機	2005.12.22～	建設工事中

(2) 島根原子力発電所の運転実績

〔2号機〕(定格出力：82万kW)

	時間稼働率(%) (注1)	発電電力量(万kWh)	設備利用率(%) (注2)
4月	100.0	60,671.6	102.8
5月	100.0	62,701.6	102.8
6月	100.0	60,521.0	102.5
7月	100.0	62,088.6	101.8
8月	100.0	61,587.1	100.9
9月	100.0	59,605.1	101.0
10月	100.0	62,497.4	102.4
11月	100.0	60,645.2	102.7
12月	100.0	62,658.8	102.7
1月	100.0	62,645.8	102.7
2月	28.7	15,908.3	28.9
3月	0	0	0

(注1) 時間稼働率 = 稼働時間数 / 暦時間数 × 100 (%)

(注2) 設備利用率 = 発電電力量 / (認可電気出力 × 暦時間数) × 100 (%)

(3) 島根原子力発電所における放射性廃棄物放出実績

単位:Bq

		放射性液体廃棄物		放射性気体廃棄物					
		トリチウムを除く※1	トリチウム	放射性希ガス※2	放射性ヨウ素(¹³¹ I)※3	トリチウム	全粒子状物質(四半期合計値)		
							γ線放出核種※4	⁸⁹ Sr, ⁹⁰ Sr※5	全α放射能※6
原子炉施設合計※7	4月	ND	1.5×10 ⁸	ND	ND	5.0×10 ⁹	ND	ND	ND
	5月	ND	6.7×10 ⁷	ND	ND	7.4×10 ⁹			
	6月	ND	1.7×10 ⁸	ND	ND	1.1×10 ¹⁰			
	7月	ND	1.8×10 ⁹	ND	ND	1.5×10 ¹⁰	ND	ND	ND
	8月	ND	2.0×10 ⁹	ND	ND	1.7×10 ¹⁰			
	9月	ND	1.1×10 ⁹	ND	ND	1.6×10 ¹⁰			
	10月	ND	1.8×10 ⁹	ND	ND	1.4×10 ¹⁰	ND	ND	ND
	11月	ND	4.1×10 ⁶	ND	ND	1.2×10 ¹⁰			
	12月	ND	1.2×10 ⁸	ND	ND	1.1×10 ¹⁰			
	1月	ND	1.8×10 ⁹	ND	ND	1.0×10 ¹⁰	3.9×10 ⁴	ND	ND
	2月	ND	2.7×10 ¹⁰	ND	ND	1.1×10 ¹⁰			
	3月	ND	3.0×10 ¹⁰	ND	ND	1.2×10 ¹⁰			
年間合計		ND	6.7×10 ¹⁰	ND	ND	1.4×10 ¹¹	3.9×10 ⁴	ND	ND
年間放出管理目標値		3.7×10 ¹⁰	(3.7×10 ¹²)※8	4.0×10 ¹⁴	2.2×10 ¹⁰		2.0×10 ⁸ (コバルト60)		

(備考)

放射性気体廃棄物の放出放射エネルギー(Bq)は、排気中の放射性物質濃度(Bq/cm³)に排気量(cm³)を乗じて求めている。

なお、検出下限値未満の場合は「ND」と記載している。

※1 ND : 検出下限値 (2×10⁻² Bq/cm³)未満 (⁶⁰Co に対する値を代表として示す)

※2 ND : 検出下限値 (2×10⁻² Bq/cm³)未満

※3 ND : 検出下限値 (7×10⁻⁹ Bq/cm³)未満

※4 ND : 検出下限値 (4×10⁻⁹ Bq/cm³)未満 (⁶⁰Co に対する値を代表として示す)

※5 ND : 検出下限値 (4×10⁻¹⁰ Bq/cm³)未満 (⁹⁰Sr に対する値を代表として示す)

※6 ND : 検出下限値 (4×10⁻¹⁰ Bq/cm³)未満

※7 : 原子炉施設合計値は、端数処理の関係で一致しない場合がある。

※8 : 年間放出管理の基準値

『島根原子力発電所に係る鳥取県民の安全確保等に関する協定及び同協定運営要綱』に基づく島根原子力発電所からの連絡文書及び原子力規制庁HP<N-ADRES>「令和7年度下期放射線管理等報告書_中国電力(株)島根原子力発電所」から転載

2 人形峠環境技術センターの状況

(1) 人形峠環境技術センターの廃止措置状況

施設	施設状況	
	年月日	概要
ウラン濃縮原型プラント	2021.5.24～	廃止措置作業の実施
濃縮工学施設	通年	維持管理
	2025.5.8～2026.3.31	パイロットプラント遠心機処理の実施
製錬転換施設	通年	維持管理

(2) 施設の排気・排水の監視測定結果

ア 施設の排気 (全 α)(単位) 全 α : $\times 10^{-9}$ Bq/cm³

施設名			月平均値			月平均値			月平均値			月平均値		
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
濃縮工場	濃縮工学施設	OP-1	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3
		OP-2	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3
	ウラン濃縮原型プラント	主棟	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3
		付属棟	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3
		DOP-2	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3
製錬転換施設			< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3
放射性廃棄物焼却施設			< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3

イ 施設の排気 (U、Ra、ふっ素)

(単位) U: $\times 10^{-9}$ Bq/cm³、Ra-226: $\times 10^{-9}$ Bq/cm³、ふっ素: $\times 10^{-4}$ mg/m³

採取地点			第1四半期					第2四半期					第3四半期					第4四半期				
			分析値					分析値					分析値					分析値				
			U-238	U-234	U-235	Ra-226	ふっ素	U-238	U-234	U-235	Ra-226	ふっ素	U-238	U-234	U-235	Ra-226	ふっ素	U-238	U-234	U-235	Ra-226	ふっ素
濃縮工場	濃縮工学施設	OP-1	< 0.1	< 0.1	< 0.1	< 0.3	< 1	< 0.1	< 0.1	< 0.1	< 0.3	< 1	< 0.1	< 0.1	< 0.1	< 0.3	< 1	< 0.1	< 0.1	< 0.1	< 0.3	< 1
		OP-2	< 0.1	< 0.1	< 0.1	< 0.3	< 1	< 0.1	< 0.1	< 0.1	< 0.3	< 1	< 0.1	< 0.1	< 0.1	< 0.3	< 1	< 0.1	< 0.1	< 0.1	< 0.3	< 1
	ウラン濃縮 原型プラント	主棟	< 0.1	< 0.1	< 0.1	< 0.3	< 1	< 0.1	< 0.1	< 0.1	< 0.3	< 1	< 0.1	< 0.1	< 0.1	< 0.3	< 1	< 0.1	< 0.1	< 0.1	< 0.3	< 1
		付属棟	< 0.1	< 0.1	< 0.1	< 0.3	< 1	< 0.1	< 0.1	< 0.1	< 0.3	< 1	< 0.1	< 0.1	< 0.1	< 0.3	< 1	< 0.1	< 0.1	< 0.1	< 0.3	< 1
		DOP-2	< 0.1	< 0.1	< 0.1	< 0.3	< 1	< 0.1	< 0.1	< 0.1	< 0.3	< 1	< 0.1	< 0.1	< 0.1	< 0.3	< 1	< 0.1	< 0.1	< 0.1	< 0.3	< 1
製錬転換施設			< 0.1	< 0.1	< 0.1	< 0.3	< 1	< 0.1	< 0.1	< 0.1	< 0.3	< 1	< 0.1	< 0.1	< 0.1	< 0.3	< 1	< 0.1	< 0.1	< 0.1	< 0.3	< 1
放射性廃棄物焼却施設			< 0.1	< 0.1	< 0.1	< 0.3	< 1	< 0.1	< 0.1	< 0.1	< 0.3	< 1	< 0.1	< 0.1	< 0.1	< 0.3	< 1	< 0.1	< 0.1	< 0.1	< 0.3	< 1

排気の管理目標値

全 α	U-238	Ra-226	ふっ素
7.4(3.7)	1.8	3.7	3.3

注) 全 α ()内は濃縮工場に対する値

排気の法令値

U-238	U-234	U-235	Ra-226	ふっ素
20 ¹⁾	10 ¹⁾	20 ¹⁾	40	10000 ²⁾

注) U 及び Ra-226 の法令値は、周辺監視区域の外側における値である。

1) 最も厳しい化学形における値

2) 大気汚染防止法における最も厳しい基準値(アルミニウム製錬用電解炉[天井から出るもの])

ウ 施設の排水

(単位) 全α : ×10⁻³ Bq/cm³、U : ×10⁻³ Bq/cm³、Ra-226 : ×10⁻³ Bq/cm³、ふっ素 : mg/L

採取地点		第1四半期						第2四半期						第3四半期						第4四半期					
		分析値						分析値						分析値						分析値					
		全α	U-238	U-234	U-235	Ra-226	ふっ素	全α	U-238	U-234	U-235	Ra-226	ふっ素	全α	U-238	U-234	U-235	Ra-226	ふっ素	全α	U-238	U-234	U-235	Ra-226	ふっ素
濃縮工場	濃縮工学施設	期間中排水なし						期間中排水なし						期間中排水なし						期間中排水なし					
	ウラン濃縮 原型プラント	< 1	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.03	< 1	期間中排水なし						< 1	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.03	< 1	< 1	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.03	< 1
製錬転換施設		期間中排水なし						期間中排水なし						< 1	< 0.3	0.36	< 0.3	< 0.03	< 1	期間中排水なし					

排水の管理目標値

全α	U-238	Ra-226	ふっ素
22(3.7)	2.2	1.8	8～10

注)全α ()内は濃縮工場に対する値

排水の法令値

U-238	U-234	U-235	Ra-226	ふっ素
20 ¹⁾	20 ¹⁾	20 ¹⁾	2	8 ²⁾

注)U 及び Ra-226 の法令値は、周辺監視区域の外側における値である。

1)最も厳しい化学形における値

2)水質汚濁防止法による

3 可搬型モニタリングポストの稼働・通信訓練の結果

(1) 概要

緊急時に備え、4地点において可搬型モニタリングポストの連続稼働・通信訓練を実施し、年間を通じて4地点ともに稼働状態にあったことを確認した。なお、電子式線量計への切替えに併せて、4地点すべての可搬型モニタリングポストを撤去し、令和8年3月17日を以て終了した。

(2) 結果概要

ア 設置場所

項目	設置場所
線 量 率	境港市渡町 (障がい者支援施設光洋の里) ⑫
	境港市渡町(渡駐在所) ⑬
	米子市大崎(大崎駐在所) ⑭
	米子市旗ヶ崎(旗ヶ崎交番) ⑮



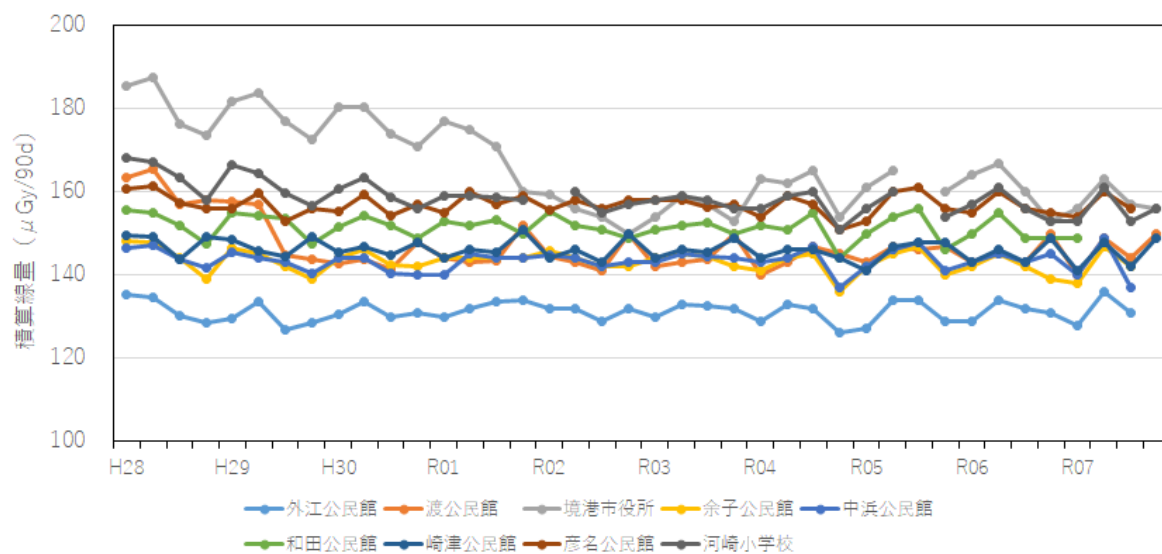
イ 結果

年間を通じて、4地点ともに検出器や通信機器の故障がなく稼働していたことから、安定した稼働及び通信状態であることを確認した。

表Ⅳ－３－１ 稼働結果

地点	区分	R07 年度 測定結果	(参考) 設置時から R06 年度まで	単位	備考
障がい者支援施設 光洋の里	最高値	151	150	n Gy/h	H30 年度設置
	最低値	35	29		
	平均値	55			
渡駐在所	最高値	143	132		H26 年度設置
	最低値	44	38		
	平均値	55			
大崎駐在所	最高値	148	123		H26 年度設置
	最低値	40	40		
	平均値	60			
旗ヶ崎交番	最高値	109	121		H26 年度設置
	最低値	42	47		
	平均値	55			

4 島根原子力発電所周辺における積算線量の経年変化



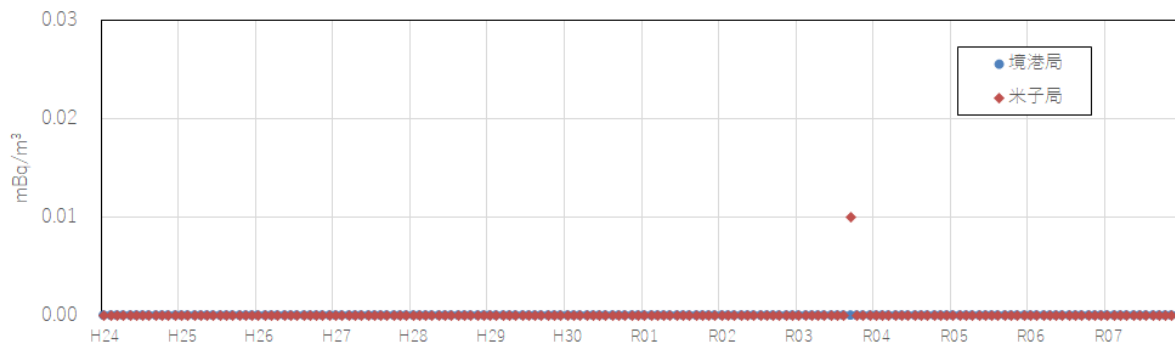
図Ⅳ－４－１ 積算線量の経年変化

5 島根原子力発電所周辺における環境試料中の人工放射性核種の経年変化

(1) セシウム 137

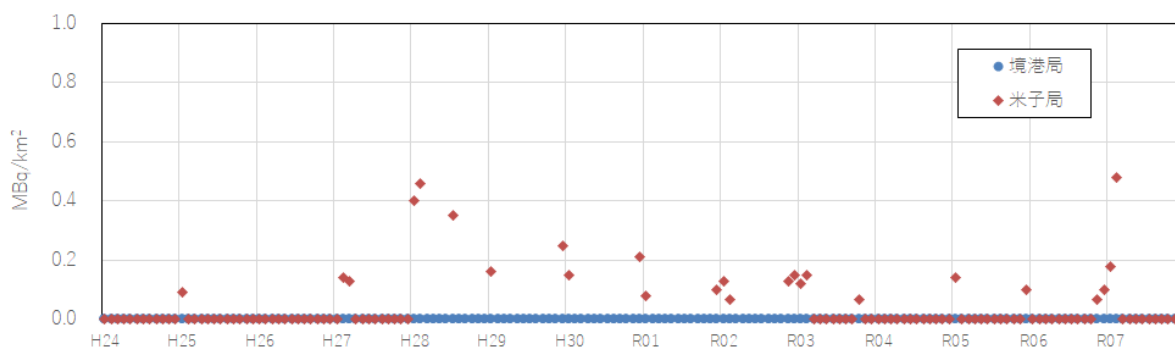
グラフ上では、検出下限値未満は0で表示している。

(ア) 大気浮遊じん



図Ⅳ－５－１ 大気浮遊じん中のセシウム 137 濃度の経年変化 (H24 年度から調査開始)

(イ) 降下物



※ 米子局は H29 年度から採取場所を変更

図Ⅳ－５－２ 降下物中のセシウム 137 濃度の経年変化 (H24 年度から調査開始)

(ウ) 陸水

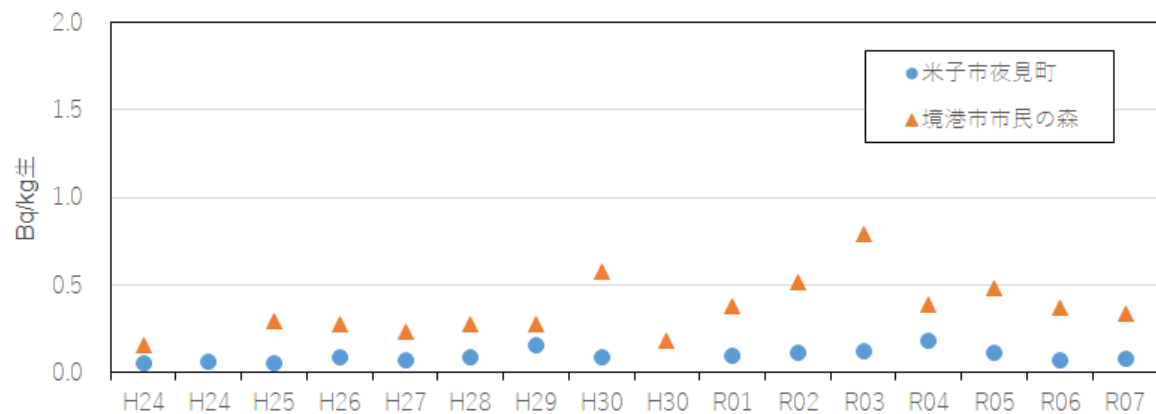


※ 境港市小篠津町 (池水) の調査は H24～R04 年度まで

※ R05 年度から境港市上道町、米子市河崎、米子市福市の 3 地点を 3 年毎に調査

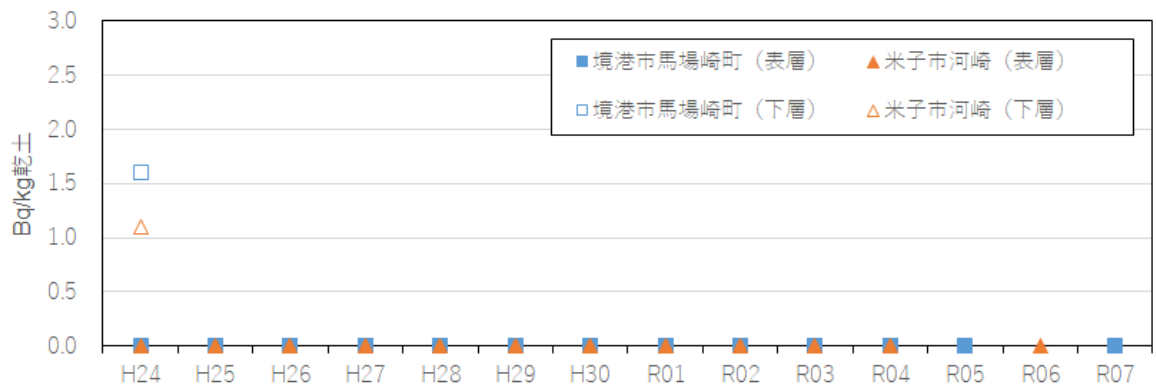
図Ⅳ－５－３ 陸水中のセシウム 137 濃度の経年変化 (H24 年度から調査開始)

(エ) 植物（松葉）



図Ⅳ－５－４ 松葉中のセシウム 137 濃度の経年変化（H24 年度から調査開始）

(オ) 陸土

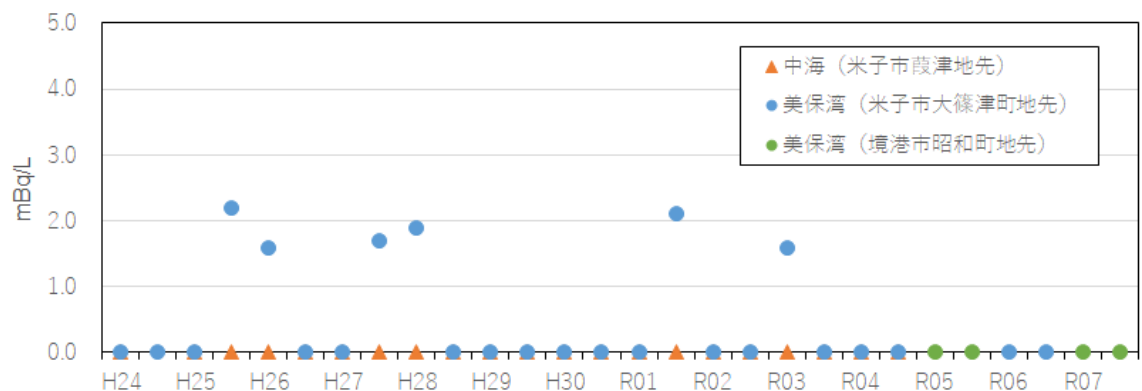


※ 境港市馬場崎町(下層)、米子市河崎(下層)の調査はH24～R04 年度まで

※ R05 年度から境港市馬場崎町(上層)、米子市河崎(上層)の2 地点を2 年毎に調査

図Ⅳ－５－５ 陸土中のセシウム 137 濃度の経年変化（H24 年度から調査開始）

(カ) 海水

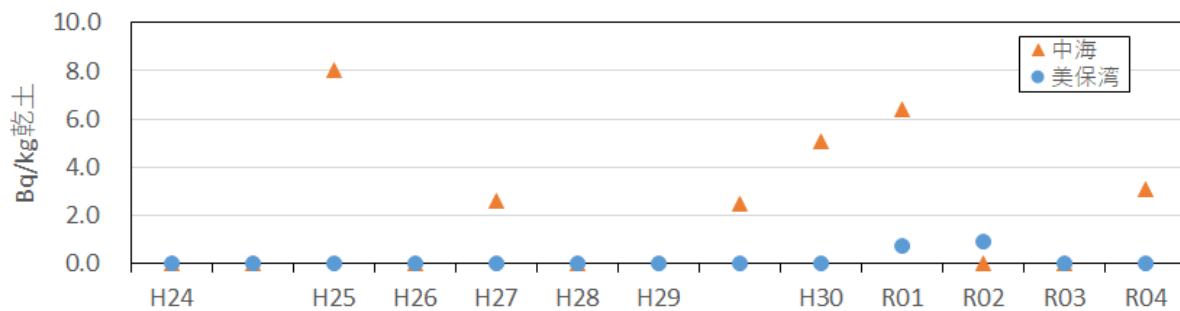


※ 中海の調査期間はH24～R04 年度まで

※ R05 年度から美保湾(大篠津)と美保湾(昭和町)の2 地点を2 年毎に調査

図Ⅳ－５－６ 海水中のセシウム 137 濃度の経年変化（H24 年度から調査開始）

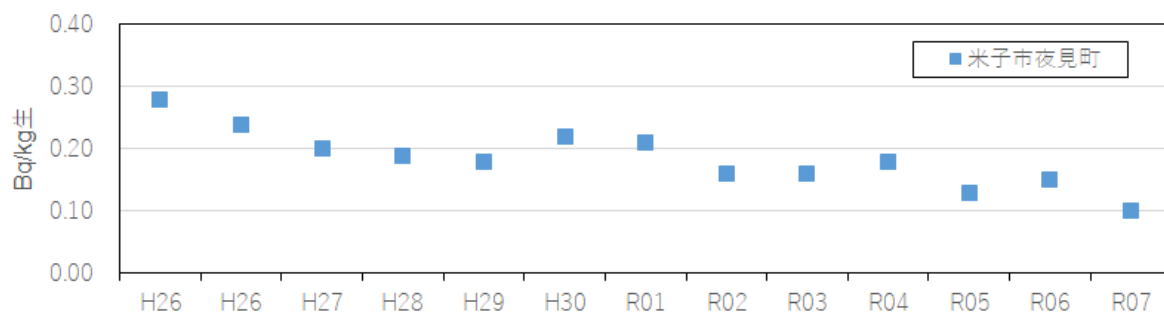
(キ) 海底土



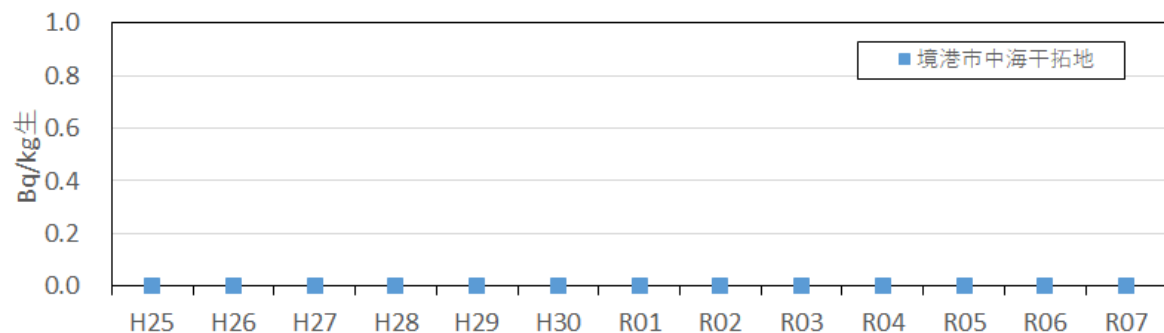
※ 海底土の調査は R04 年度で終了

図Ⅳ－５－７ 海底土中のセシウム 137 濃度の経年変化 (H24～R04 年度)

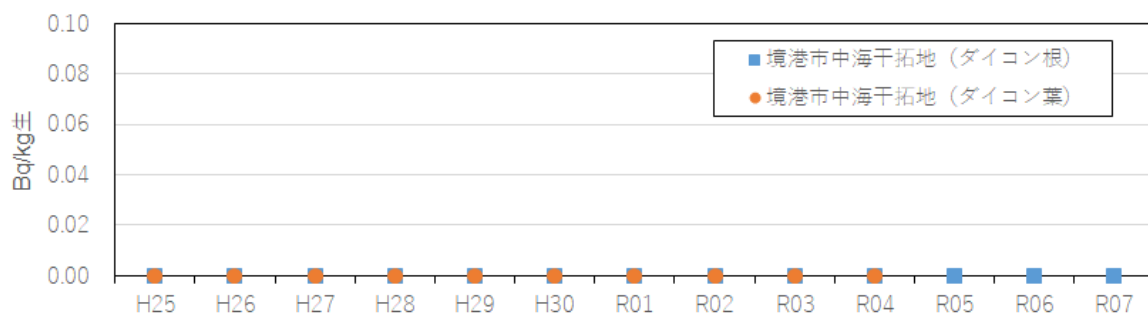
(ク) 農産物 (米 (精米)、白ネギ、ダイコン (根、葉))



図Ⅳ－５－８ 米 (精米) 中のセシウム 137 濃度の経年変化 (H26 年度から調査開始)



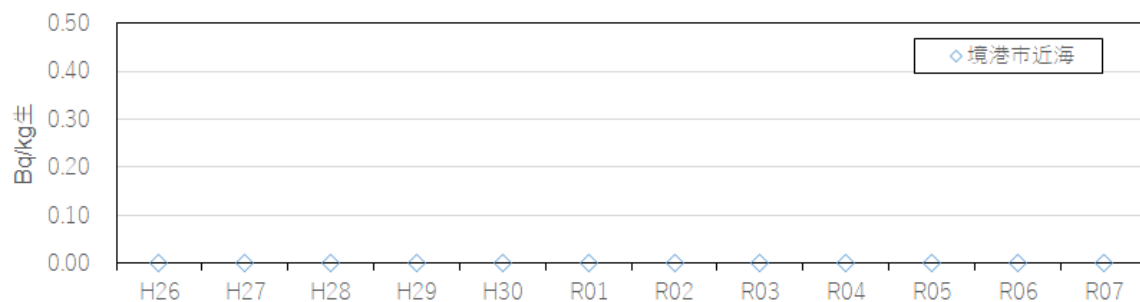
図Ⅳ－５－９ 白ネギ中のセシウム 137 濃度の経年変化 (H25 年度から調査開始)



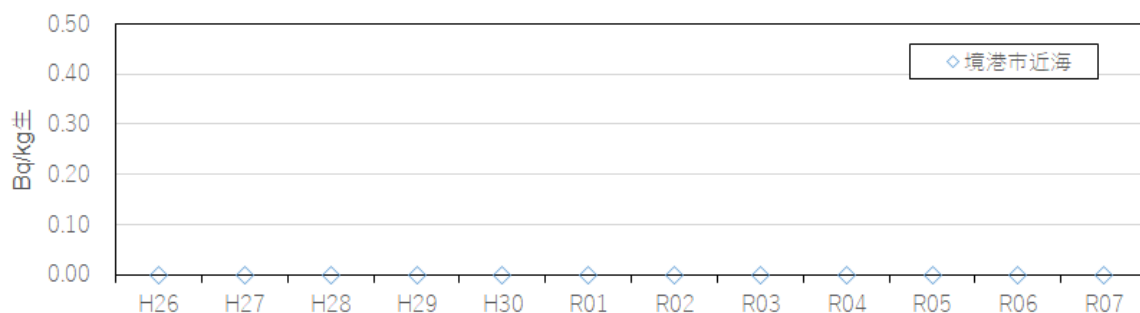
※ ダイコン (葉) の調査は H25～R04 年度まで

図Ⅳ－５－１０ ダイコン中のセシウム 137 濃度の経年変化 (H25 年度から調査開始)

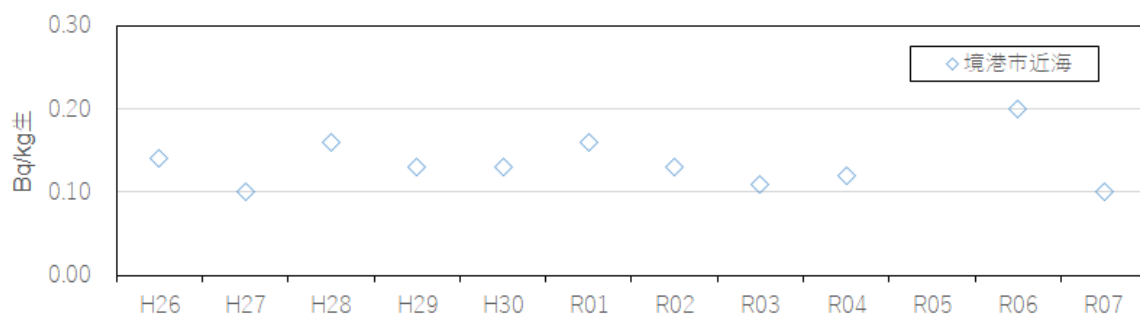
(ケ) 海産物（ワカメ、イワガキ、セイゴ、ナマコ）



図Ⅳ－５－１１ ワカメ中のセシウム 137 濃度の経年変化（H26 年度から調査開始）

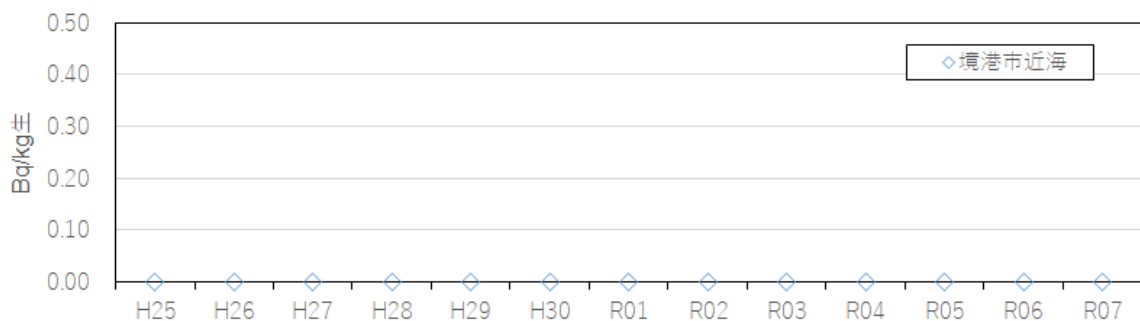


図Ⅳ－５－１２ イワガキ中のセシウム 137 濃度の経年変化（H26 年度から調査開始）



※ R05 年度は採取できなかったため欠測

図Ⅳ－５－１３ セイゴ中のセシウム 137 濃度の経年変化（H26 年度から調査開始）

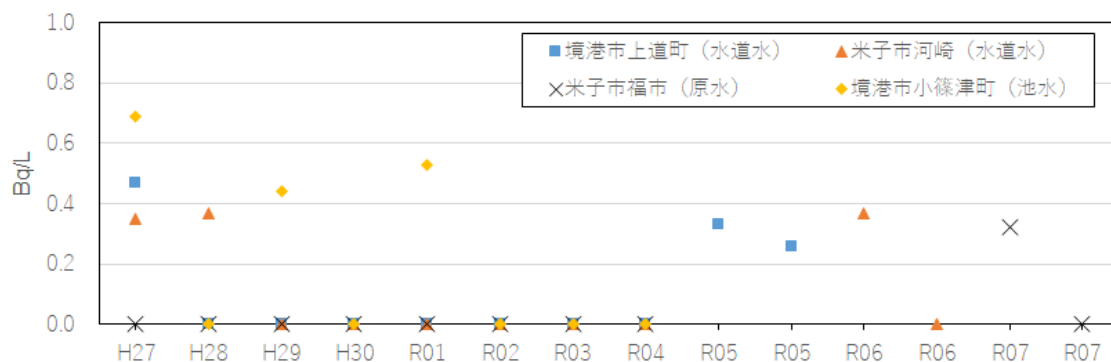


図Ⅳ－５－１４ ナマコ中のセシウム 137 濃度の経年変化（H25 年度から調査開始）

(2) トリチウム

グラフ上では、検出下限値未満は0で表示している。

(ア) 陸水

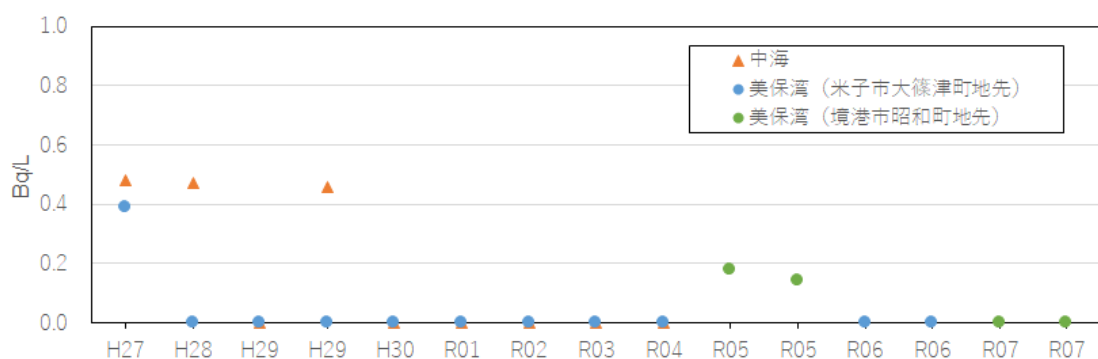


※ 境港市小篠津町(池水)の調査は H27～R04 年度まで

※ R05 年度から境港市上道町、米子市河崎、米子市福市の3地点を3年毎に調査

図Ⅳ－５－１５ 陸水中のトリチウム濃度の経年変化 (H27 年度から調査開始)

(イ) 海水



※ 中海の調査期間は H24～R04 年度まで

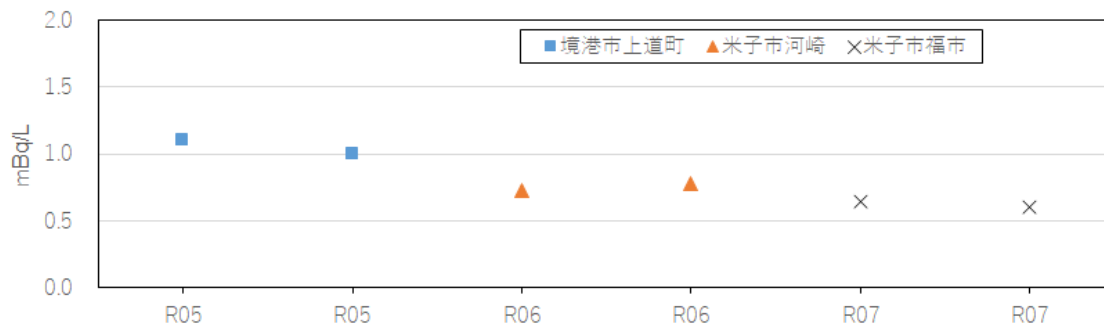
※ R05 年度から美保湾(米子市大篠津町地先)と美保湾(境港市昭和町地先)の2地点を2年毎に調査

図Ⅳ－５－１６ 海水中のトリチウム濃度の経年変化 (H27 年度から調査開始)

(3) ストロンチウム 90

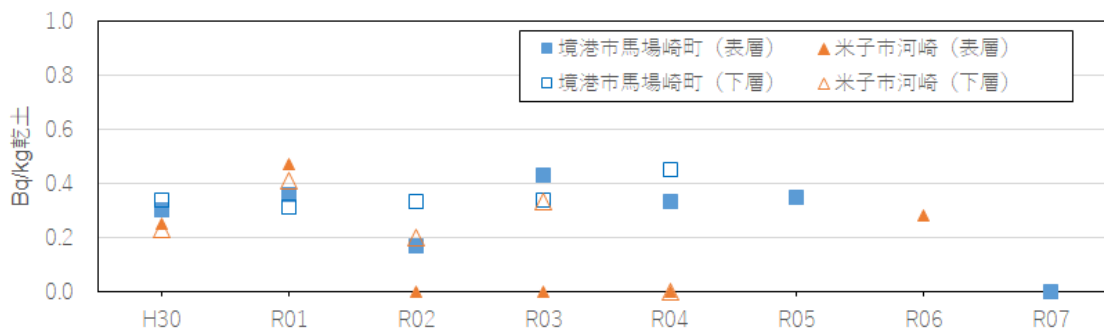
グラフ上では、検出下限値未満は 0 で表示している。

(ア) 陸水



図Ⅳ－５－１７ 陸水中のストロンチウム 90 濃度の経年変化 (R05 年度から調査開始)

(イ) 陸土

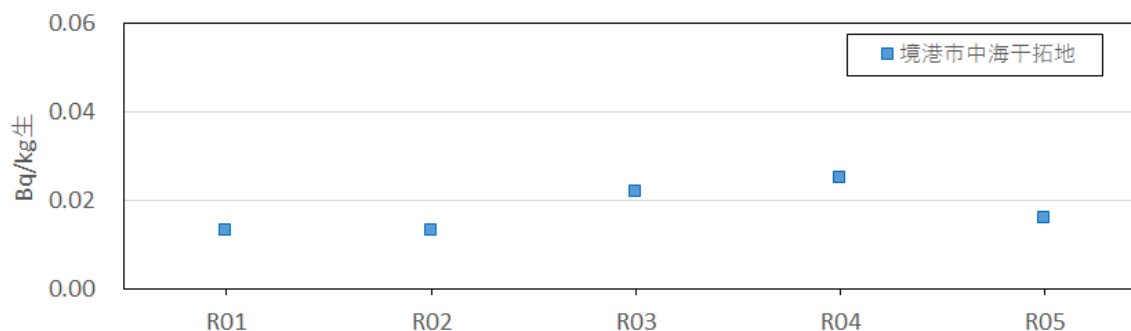


※ 境港市馬場崎町(下層)と米子市河崎(下層)の調査は H30～R04 年度まで

※ R05 年度から境港市馬場崎町(上層)と米子市河崎(上層)の 2 地点を 2 年毎に調査

図Ⅳ－５－１８ 陸土中のストロンチウム 90 濃度の経年変化 (H30 年度から調査開始)

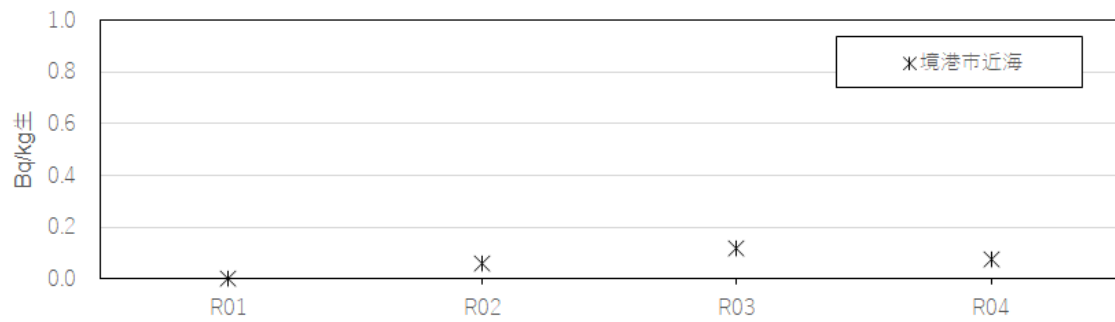
(ウ) 農産物 (白ネギ)



※ 農産物(白ネギ)の調査は R01～R05 年度まで

図Ⅳ－５－１９ 白ネギ中のストロンチウム 90 濃度の経年変化 (R01～R05 年度)

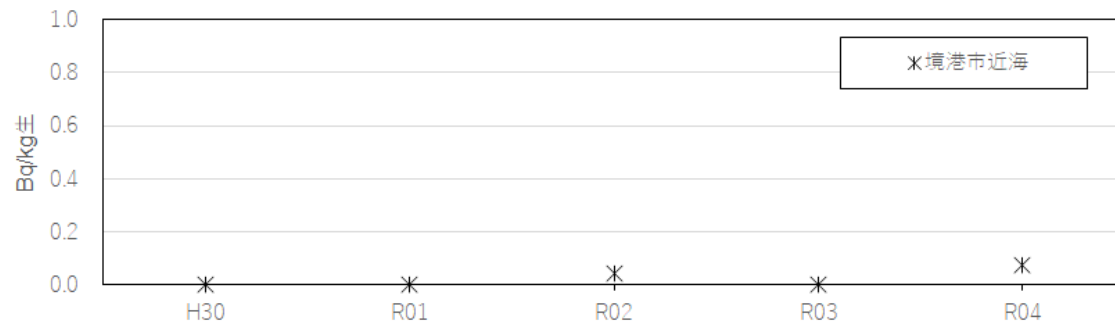
(エ) 海産生物（ワカメ）



※ ワカメの調査は R01～04 年度まで

図Ⅳ－５－２０ ワカメ中のストロンチウム 90 濃度の経年変化（R01～04 年度）

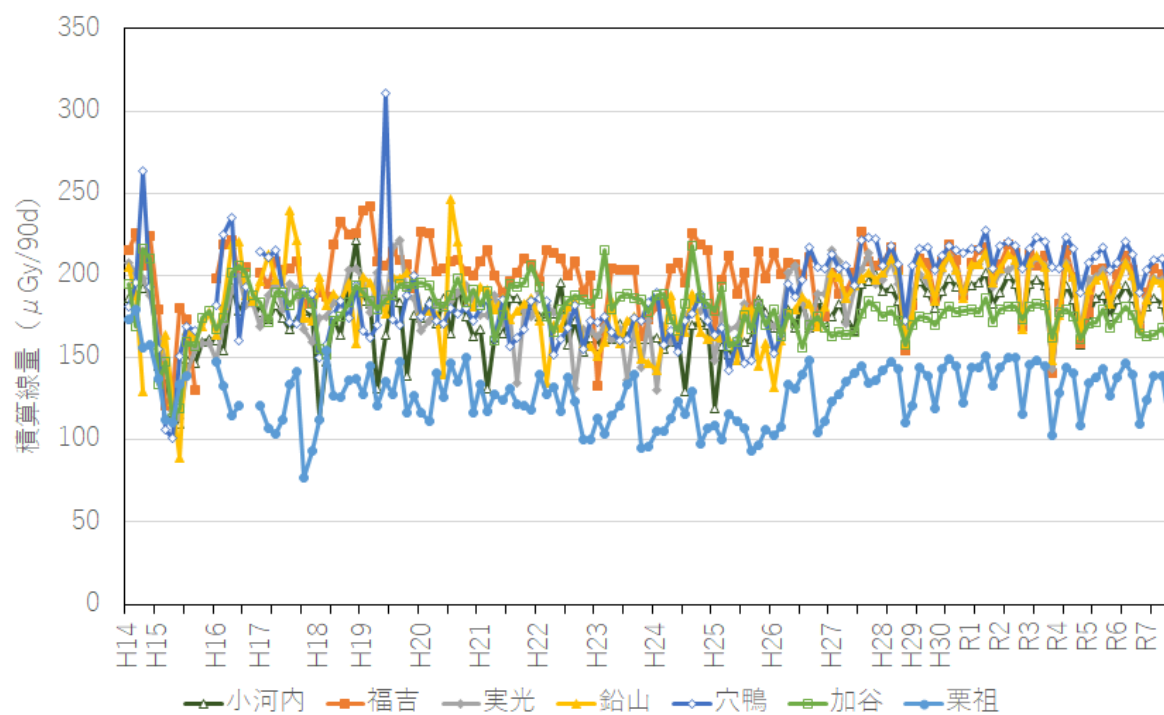
(オ) 海産生物（イワガキ）



※ イワガキの調査は H30～R04 年度まで

図Ⅳ－５－２１ イワガキ中のストロンチウム 90 濃度の経年変化（H30～R04 年度）

6 人形峠環境技術センター周辺における積算線量の経年変化



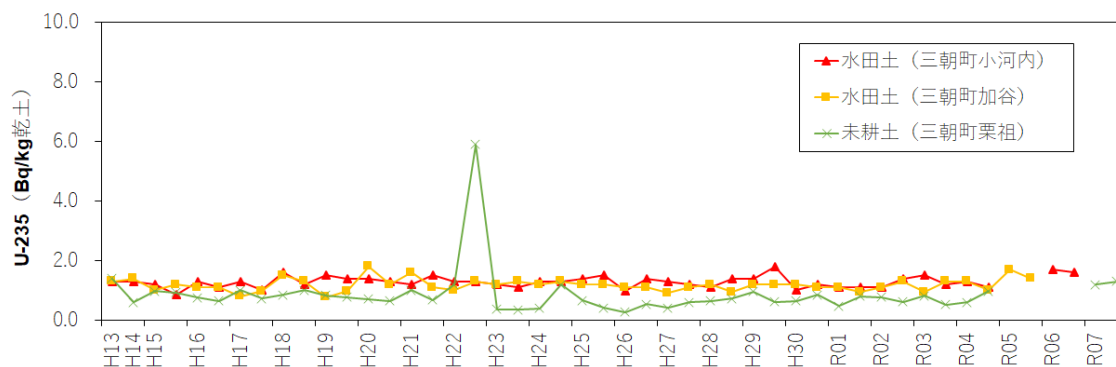
図Ⅳ－6－1 積算線量の経年変化

7 人形峠環境技術センター周辺における環境試料中の放射性核種の経年変化

(1) ウラン 235

グラフ上では、検出下限値未満は0で表示している。

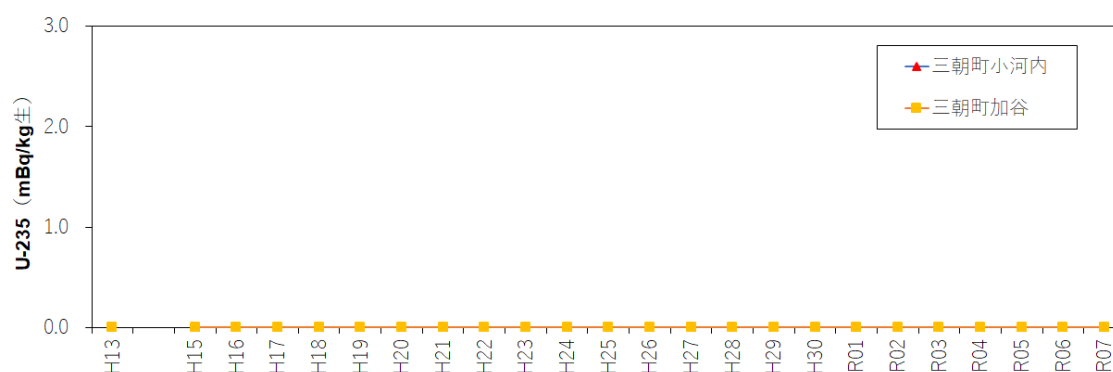
ア 土壌（水田土、未耕土）



※ R05年度より、三朝町小河内、三朝町加谷、三朝町栗祖の3地点を3年毎に調査

図IV-7-1 土壌（水田土、未耕土）中のウラン235濃度の経年変化

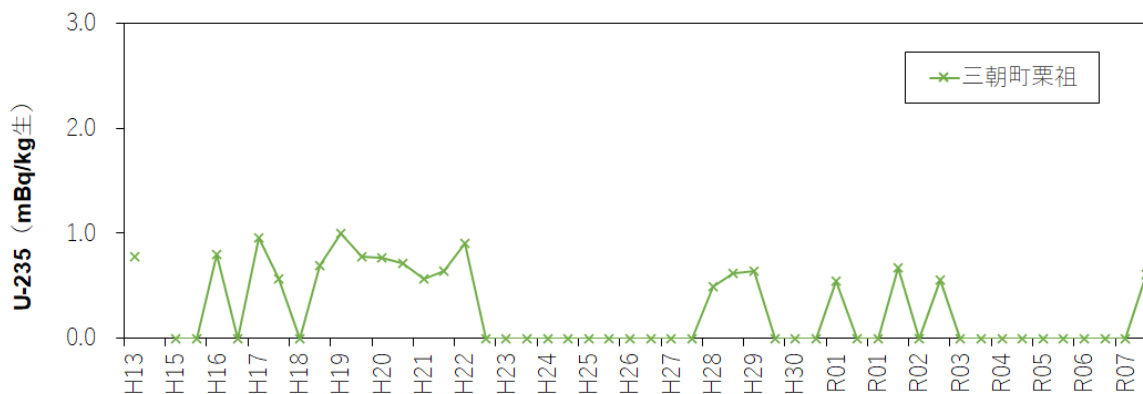
イ 農産物（米）



※ R05年度より、三朝町小河内、三朝町加谷の2地点を2年毎に調査

図IV-7-2 米（精米）中のウラン235濃度の経年変化

ウ 植物（杉葉）

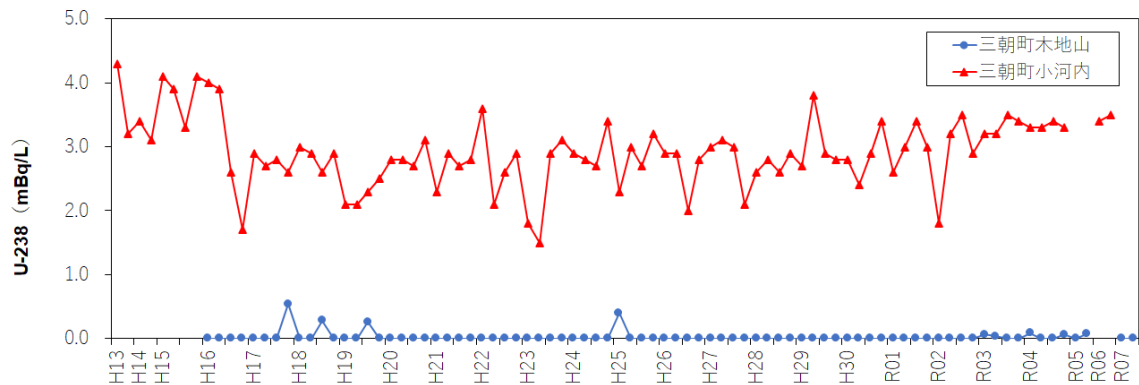


図IV-7-3 植物（杉葉）中のウラン235濃度の経年変化

(2) ウラン 238

グラフ上では、検出下限（定量下限）値未満は0で表示している。

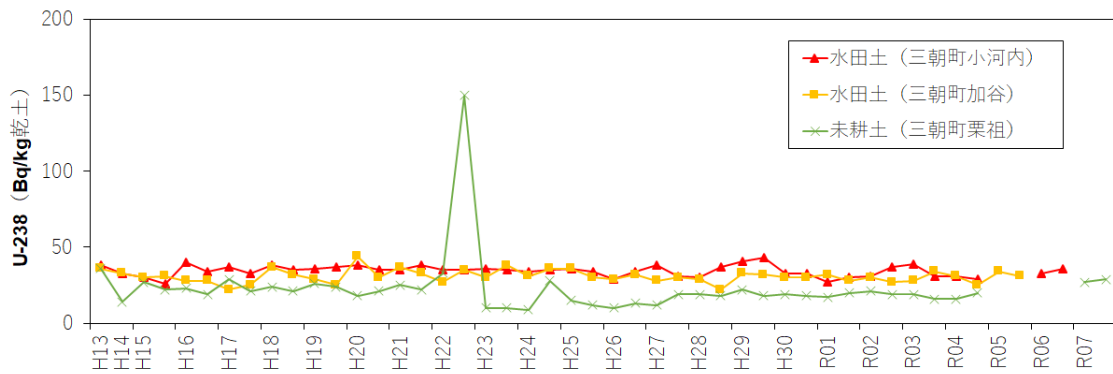
ア 陸水



※ R05 年度より栗祖と小河内の2地点を2年毎に調査

図Ⅳ－7－4 陸水中のウラン 238 濃度の経年変化

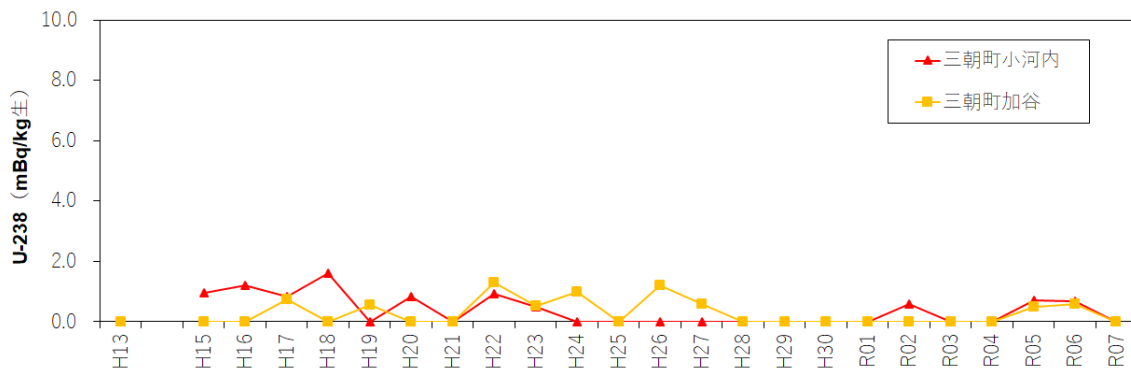
イ 土壌（水田土、未耕土）



※ R05 年度より、三朝町小河内、三朝町加谷、三朝町栗祖の3地点を3年毎に調査

図Ⅳ－7－5 土壌（水田土、未耕土）中のウラン 238 濃度の経年変化

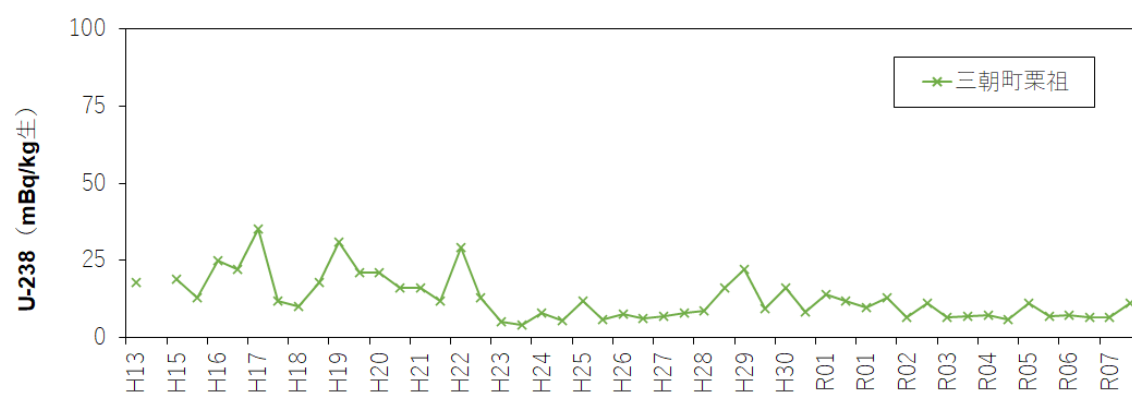
ウ 農産物（米）



※ R05 年度より、三朝町小河内、三朝町加谷の2地点を2年毎に調査

図Ⅳ－7－6 米（精米）中のウラン 238 濃度の経年変化

エ 植物（杉葉）



図Ⅳ－７－７ 植物（杉葉）中のウラン２３８濃度の経年変化

8 環境試料の測定結果に基づく預託実効線量（成人）

島根原子力発電所周辺の平常時モニタリングにおいて、環境試料から検出されたCs-137、H-3、Sr-90の測定結果を基に、「平常時モニタリングについて（原子力災害対策指針補足参考資料、平成30年4月、原子力規制庁監視情報課）」等に準じて、吸入摂取及び経口摂取した場合の内部被ばくによる預託実効線量を推定した結果を下表に示す。

実効線量（ $\times 10^{-5}$ mSv/年）

試料区分	1日 当たりの 摂取量	Cs-137			H-3			Sr-90			備考
		濃度 (平均)	単位	実効線量	濃度 (平均)	単位	実効線量	濃度 (平均)	単位	実効線量	
浮遊じん	22.2 m ³	—	mBq/m ³	—							
水道水	2.65 L	—	mBq/L	—	0.32	Bq/L	0.6	0.64	mBq/L	1.7	
米	0.3 kg	0.10	Bq/kg生	14.2							
魚	0.2 kg	0.10	Bq/kg生	9.5							
無脊椎動物	0.02 kg	—	Bq/kg生	—							
海藻類	0.04 kg	—	Bq/kg生	—							

注1 濃度は、測定値の平均値（検出下限値未満（ND）がある場合はNDを除外した平均値）であり、「—」は全ての試料がNDであったことを示す。この場合、実効線量欄にも「—」を記した。網掛け欄は分析対象外。

注2 上記以外の分析対象核種（Mn-54、Fe-59、Co-58、Co-60、Cs-134、I-131）は、検出されなかった。

注3 1日あたりの摂取量及び実効線量の計算における係数は、「平常時モニタリングについて（原子力災害対策指針補足参考資料）（平成30年4月（令和3年12月21日改訂）、原子力規制庁監視情報課）」に準拠した。

なお、市場希釈、調理等に伴うロスなどによる補正は行わなかった。また、米の1日あたりの摂取量は、「平成30年度 島根原子力発電所周辺環境放射線等調査結果（令和元年8月、島根県）」に記載された島根県の実験値を使用した。

注4 発電用軽水炉型原子炉施設周辺の線量目標値に関する指針では、発電用原子炉施設が通常運転時に環境に放出する放射性物質によって施設周辺の公衆の受ける線量目標値は実効線量で年間50 μ Svとされている。また、実用発電用原子炉の設置、運転等に関する規則に定める周辺監視区域外の年線量限度は1 mSvである。

9 環境試料中の放射性核種の検出下限（定量下限）値

（１）島根原子力発電所周辺

ア 環境試料中の放射性核種（ γ 線スペクトロメトリー）

（ア）大気（浮遊じん）

表Ⅳ－９－１ 大気（浮遊じん）の検出下限値

（単位：mBq/m³）

採取地点	採取期間	対象核種						
		Mn-54	Fe-59	Co-58	Co-60	I-131	Cs-134	Cs-137
境港市上道町（境港局）	4月1日～4月30日	0.0069	0.015	0.0076	0.0078		0.0075	0.0073
	5月1日～5月31日	0.0063	0.013	0.0071	0.0072		0.0071	0.0067
	6月1日～6月30日	0.0055	0.011	0.0053	0.0058		0.0060	0.0057
	7月1日～7月31日	0.0062	0.012	0.0060	0.0065		0.0065	0.0064
	8月1日～8月31日	0.0062	0.014	0.0066	0.0062		0.0070	0.0067
	9月1日～9月30日	0.0063	0.013	0.0070	0.0065		0.0068	0.0066
	10月1日～10月31日	0.0065	0.014	0.0067	0.0068		0.0072	0.0068
	11月1日～11月30日	0.0067	0.014	0.0071	0.0070		0.0076	0.0070
	12月1日～12月31日	0.0070	0.016	0.0075	0.0072		0.0075	0.0070
	1月1日～1月31日	0.0065	0.013	0.0062	0.0059		0.0069	0.0070
	2月1日～2月28日	0.0068	0.015	0.0073	0.0068		0.0071	0.0071
	3月1日～3月31日	0.0060	0.011	0.0058	0.0066		0.0067	0.0065
米子市河崎（米子局）	4月1日～4月30日	0.011	0.022	0.011	0.011		0.012	0.011
	5月1日～5月31日	0.010	0.021	0.0095	0.010		0.011	0.010
	6月1日～6月30日	0.0099	0.019	0.0095	0.0093		0.011	0.010
	7月1日～7月31日	0.0091	0.017	0.0092	0.0088		0.010	0.0096
	8月1日～8月31日	0.0085	0.017	0.0086	0.0088		0.0097	0.0087
	9月1日～9月30日	0.0081	0.017	0.0096	0.0084		0.0095	0.0094
	10月1日～10月31日	0.0090	0.019	0.0096	0.0081		0.011	0.0097
	11月1日～11月30日	0.0098	0.021	0.011	0.0089		0.011	0.011
	12月1日～12月31日	0.010	0.024	0.012	0.010		0.012	0.011
	1月1日～1月31日	0.011	0.021	0.011	0.010		0.012	0.012
	2月1日～2月28日	0.012	0.025	0.012	0.011		0.013	0.011
	3月1日～3月31日	0.010	0.018	0.0093	0.0089		0.011	0.0097

(イ) 降下物

表Ⅳ－９－２ 降下物の検出下限値

(単位:MBq/km²)

採取地点	採取期間	対象核種						
		Mn-54	Fe-59	Co-58	Co-60	I-131	Cs-134	Cs-137
境港市上道町（境港局）	4月1日～5月2日	0.053	0.11	0.055	0.061		0.065	0.052
	5月2日～6月2日	0.057	0.10	0.053	0.064		0.072	0.058
	6月2日～7月1日	0.052	0.093	0.047	0.062		0.064	0.050
	7月1日～8月1日	0.050	0.097	0.10	0.054		0.064	0.055
	8月1日～9月1日	0.054	0.11	0.055	0.064		0.069	0.057
	9月1日～10月1日	0.066	0.11	0.055	0.060		0.067	0.056
	10月1日～11月4日	0.050	0.10	0.052	0.063		0.072	0.053
	11月4日～12月1日	0.059	0.11	0.061	0.072		0.074	0.055
	12月1日～1月5日	0.061	0.17	0.064	0.066		0.072	0.063
	1月5日～2月2日	0.050	0.098	0.053	0.059		0.064	0.050
	2月2日～3月2日	0.066	0.11	0.054	0.067		0.066	0.059
	3月2日～4月1日	0.060	0.12	0.058	0.072		0.071	0.058
米子市河崎（米子局）	4月1日～5月2日	0.092	0.17	0.094	0.093		0.11	0.097
	5月2日～6月2日	0.11	0.19	0.11	0.10		0.11	0.11
	6月2日～7月1日	0.080	0.15	0.083	0.090		0.10	0.086
	7月1日～8月1日	0.094	0.16	0.091	0.099		0.11	0.10
	8月1日～9月1日	0.094	0.19	0.098	0.099		0.12	0.096
	9月1日～10月1日	0.054	0.11	0.065	0.063		0.096	0.057
	10月1日～11月4日	0.060	0.12	0.060	0.066		0.074	0.056
	11月4日～12月1日	0.092	0.18	0.094	0.099		0.12	0.10
	12月1日～1月5日	0.087	0.19	0.11	0.088		0.11	0.098
	1月5日～2月2日	0.051	0.097	0.053	0.057		0.063	0.053
	2月2日～3月2日	0.059	0.12	0.059	0.069		0.074	0.065
	3月2日～4月1日	0.10	0.19	0.10	0.097		0.11	0.10

(ウ) 陸水

表Ⅳ－９－３ 陸水の検出下限値

(単位:mBq/L)

試料	部位	採取地点	採取年月日	対象核種						
				Mn-54	Fe-59	Co-58	Co-60	I-131	Cs-134	Cs-137
水道水	原水	米子市福市	R07.05.02	0.38	0.77	0.38	0.42		0.44	0.40
			R07.11.04	0.38	0.78	0.39	0.41		0.42	0.37

(エ) 植物

表Ⅳ－９－４ 植物の検出下限値

(単位:Bq/kg生)

試料	部位	採取地点	採取年月日	対象核種						
				Mn-54	Fe-59	Co-58	Co-60	I-131	Cs-134	Cs-137
松葉	二年葉	境港市幸神町	R07.10.14	0.024	0.059	0.023	0.028	0.24	0.026	0.022
		米子市夜見町	R07.10.14	0.030	0.083	0.037	0.038	0.35	0.038	0.035

(オ) 土壌

表Ⅳ－９－５ 土壌の検出下限値

(単位:Bq/kg乾土)

試料	部位	採取地点	採取年月日	対象核種						
				Mn-54	Fe-59	Co-58	Co-60	I-131	Cs-134	Cs-137
公園	表層	境港市馬場崎町	R07.07.01	0.94	1.9	0.81	0.95		0.92	0.92

(カ) 海水

表Ⅳ－９－６ 海水の検出下限値

(単位:mBq/L)

試料	部位	採取地点	採取年月日	対象核種						
				Mn-54	Fe-59	Co-58	Co-60	I-131	Cs-134	Cs-137
海水	表層水	境港市昭和町地先 (美保湾)	R07.05.14	1.5	2.9	1.5	1.8		1.7	1.4
			R07.11.12	1.5	2.9	1.5	1.6		1.7	1.6

(キ) 農産物

表Ⅳ－９－７ 農産物の検出下限値

(単位:Bq/kg生)

試料	部位	採取地点	採取年月日	対象核種						
				Mn-54	Fe-59	Co-58	Co-60	I-131	Cs-134	Cs-137
米	精米	米子市夜見町	R07.10.24	0.049	0.12	0.051	0.051	0.064	0.053	0.055
白ネギ	可食部	境港市中海干拓地	R07.12.01	0.014	0.040	0.015	0.019	0.12	0.013	0.014
タマネギ	根	境港市中海干拓地	R07.12.09	0.014	0.039	0.015	0.018	0.10	0.014	0.014

(ク) 海産生物

表Ⅳ－９－８ 海産生物の検出下限値

(単位:Bq/kg生)

試料	部位	採取地点	採取年月日	対象核種						
				Mn-54	Fe-59	Co-58	Co-60	I-131	Cs-134	Cs-137
ワカメ	可食部	境港市近海	R07.04.03	0.041	0.11	0.040	0.050	0.11	0.037	0.037
イワガキ	身		R07.07.07	0.046	0.16	0.044	0.053		0.045	0.042
セイゴ	身		R08.01.26	0.031	0.094	0.033	0.043		0.029	0.029
ナマコ	身		R08.02.17	0.026	0.063	0.027	0.024		0.027	0.027

イ 環境試料中の放射性核種（トリチウム分析）

表Ⅳ－９－９ トリチウムの検出下限値

区分	試料名	部位	採取地点	採取年月日	検出下限値	単位
陸水	水道水	原水	米子市福市	R07.05.02	0.30	Bq/L
				R07.11.04	0.33	
海水	海水	表層水	境港市昭和町地先(美保湾)	R07.05.14	0.30	
				R07.11.12	0.33	

ウ 環境試料中の放射性核種（ストロンチウム分析）

表Ⅳ－９－１０ ストロンチウム(Sr-90)の検出下限値

区分	試料名	部位	採取地点	採取年月日	検出下限値	単位
陸水	水道水	原水	米子市福市	R07.05.02	0.38	mBq/L
				R07.11.04	0.27	
土壌	公園	表層	境港市馬場崎町	R07.07.01	0.19	Bq/kg乾土

(2) 人形峠環境技術センター周辺

ア 環境試料中の放射性核種分析等

(ア) 陸水

表Ⅳ－9－11 陸水の定量下限値

試料	部位	採取地点	採取年月日	U-238 (mBq/L)
飲料水	蛇口水	木地山	R07. 07. 17	0. 14
			R07. 11. 20	0. 012

(イ) 土壌

表Ⅳ－9－12 土壌の検出下限値

試料	部位	採取地点	採取年月日	U-235 (Bq/kg乾土)	U-238 (Bq/kg乾土)
未耕土	表層	栗祖	R07. 07. 17	0. 12	0. 12
			R07. 11. 20	0. 11	0. 13

(ウ) 農産物

表Ⅳ－9－13 農産物の検出下限値

試料	部位	採取地点	採取年月日	U-235 (mBq/kg生)	U-238 (mBq/kg生)
米	精米	三朝町加谷	R07. 12. 16	0. 58	0. 58
		三朝町小河内	R07. 12. 16	0. 63	0. 63

(エ) 植物

表Ⅳ－9－14 植物の検出下限値

試料	部位	採取地点	採取年月日	U-235 (mBq/kg生)	U-238 (mBq/kg生)
杉葉	－	三朝町栗祖	R07. 07. 17	0. 59	0. 56
			R07. 11. 20	0. 61	0. 58

10 気象測定結果

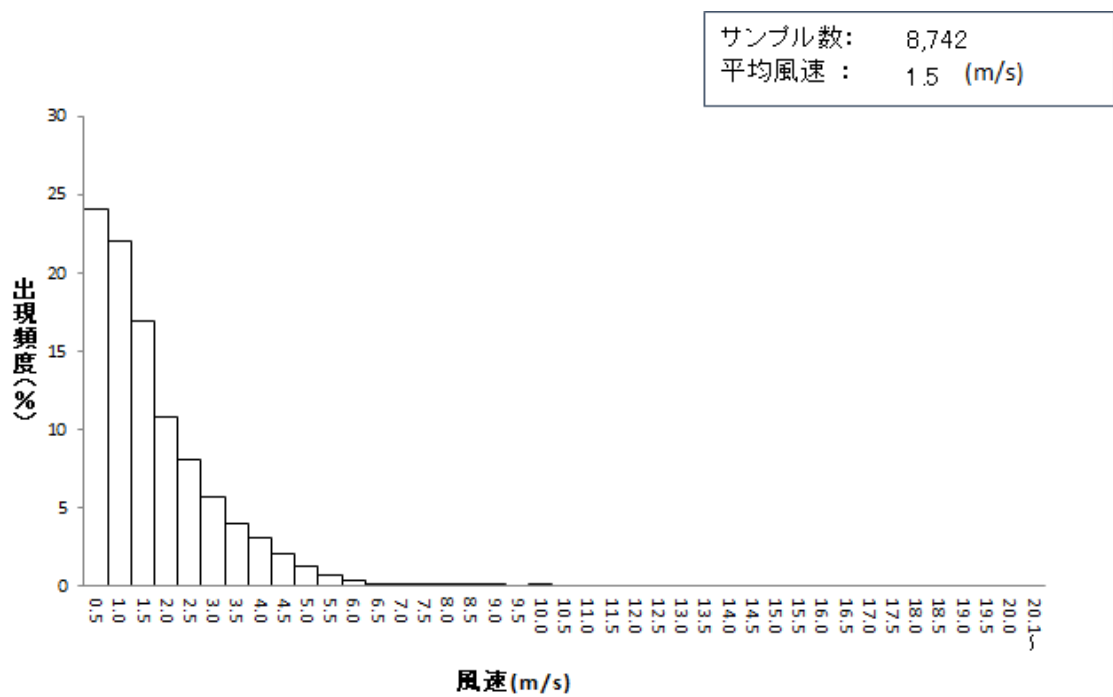
(1) 島根原子力発電所周辺

表Ⅳ－10－1 風速、気温、湿度、降水量（境港局、R07 年度）

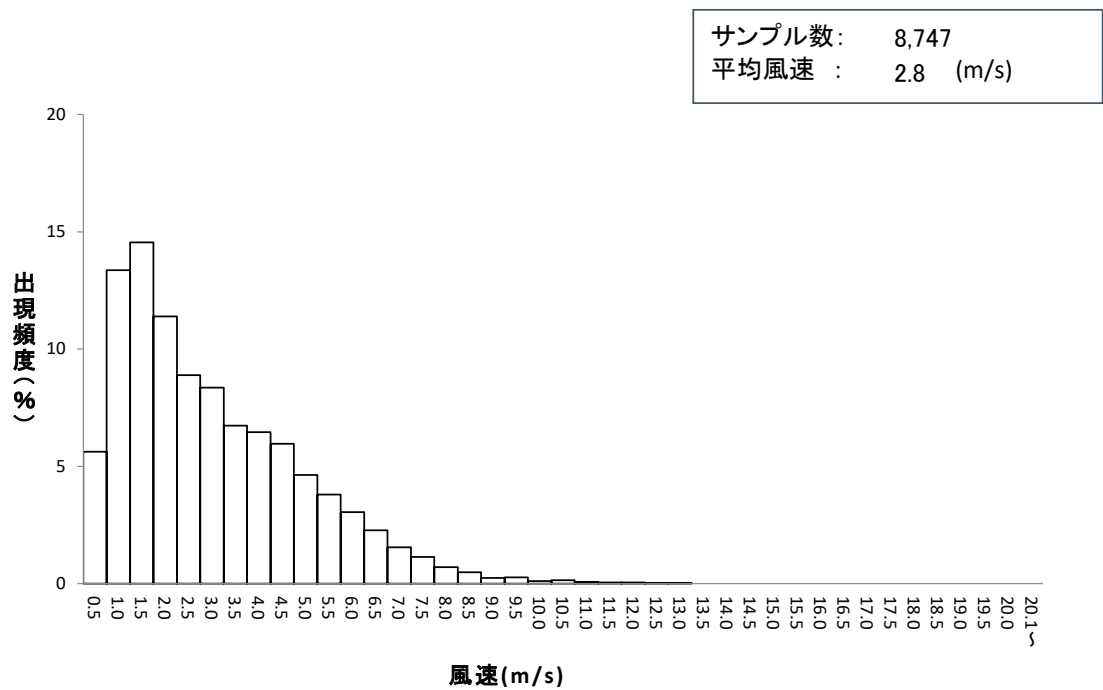
測定月	風速 (m/s)		気温 (℃)			湿度 (%)		降水量 (mm)
	最高値	平均値	最高値	最低値	平均値	最低値	平均値	
4 月	9.0	1.7	29.3	0.9	13.9	16	72	65.0
5 月	9.8	1.6	31.5	8.7	18.1	20	75	101.0
6 月	6.2	1.4	37.2	15.1	24.3	25	76	113.5
7 月	5.7	1.7	37.4	21.4	29.5	31	72	27.5
8 月	6.4	1.3	37.6	23.1	29.2	42	78	227.0
9 月	5.3	1.3	36.2	17.4	26.4	45	80	218.0
10 月	6.0	1.6	30.2	7.2	19.9	35	79	141.0
11 月	5.5	1.2	22.9	5.0	12.8	37	78	75.5
12 月	5.2	1.4	22.3	0.2	8.2	39	79	98.5
1 月	7.9	2.0	16.4	-1.2	4.5	41	78	74.5
2 月	7.2	1.3	23.2	-3.0	6.5	34	80	105.5
3 月	7.8	1.5	23.1	-0.5	9.3	32	76	78.0
年間	9.8	1.5	37.6	-3.0	16.9	16	77	1,325.0

表Ⅳ－10－2 風速、気温、湿度、降水量（米子局、R07 年度）

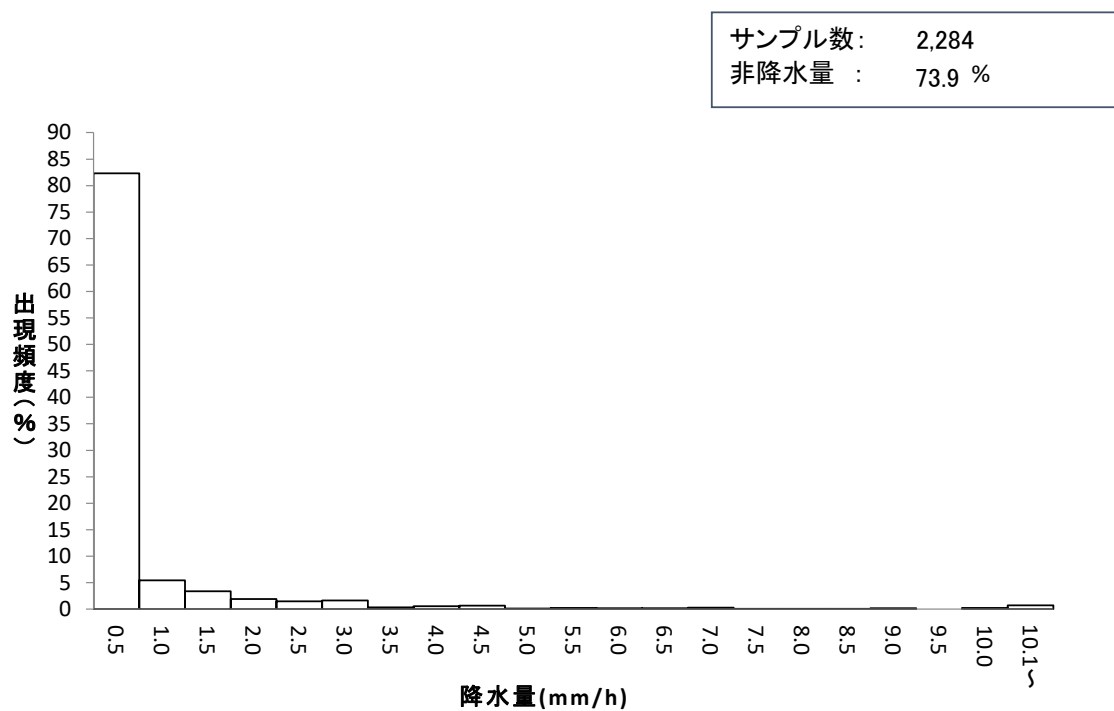
測定月	風速 (m/s)		気温 (℃)			湿度 (%)		降水量 (mm)
	最高値	平均値	最高値	最低値	平均値	最低値	平均値	
4 月	10.7	3.0	28.8	-1.2	13.5	10	69	41.5
5 月	14.3	3.0	30.9	6.8	17.7	17	73	90.0
6 月	9.3	2.5	34.3	14.0	23.8	26	75	128.5
7 月	9.4	3.1	38.7	21.4	29.0	26	71	26.5
8 月	8.6	2.3	36.3	22.1	28.7	40	76	178.5
9 月	7.7	2.4	36.1	15.8	26.0	45	79	187.0
10 月	7.5	2.9	30.5	4.9	19.4	34	78	157.5
11 月	8.5	2.1	20.8	2.9	12.1	38	76	61.5
12 月	11.1	2.8	20.9	-0.1	8.1	31	75	75.0
1 月	12.8	3.5	15.1	-1.7	4.3	40	77	52.5
2 月	9.2	3.0	23.3	-2.4	6.5	28	76	69.0
3 月	11.2	3.0	22.9	-1.3	8.7	32	75	75.5
年間	12.9	2.8	38.7	-2.4	16.5	10	75	1,143.0



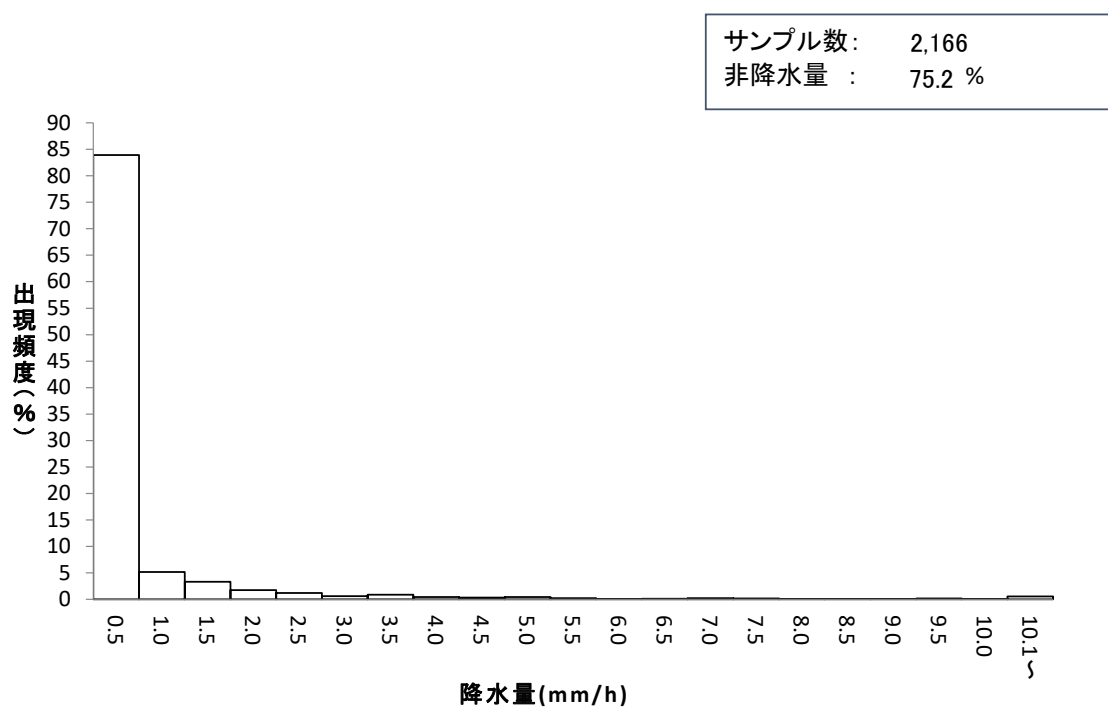
図Ⅳ－１０－１ 風速度数分布（境港局、R07 年度）



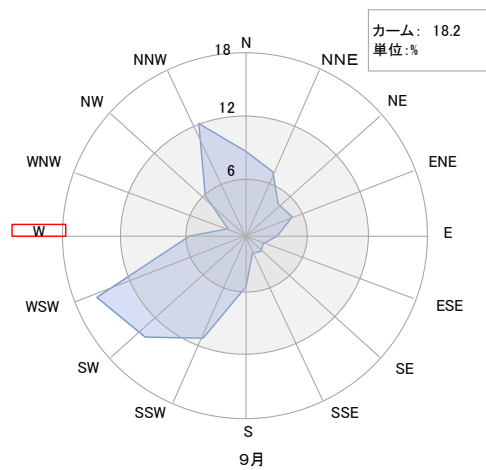
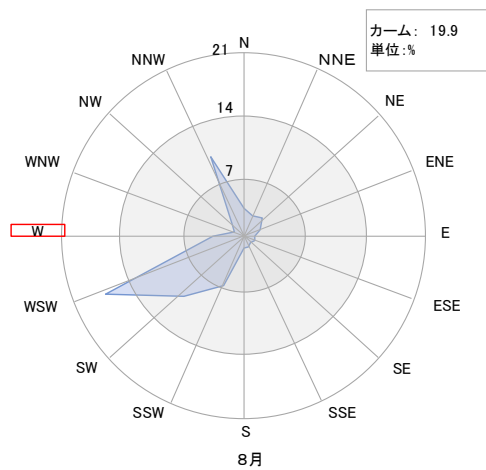
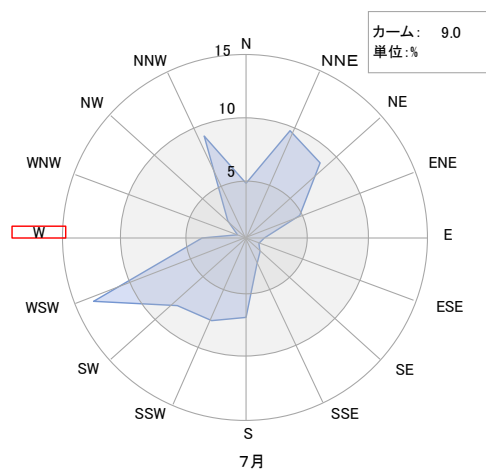
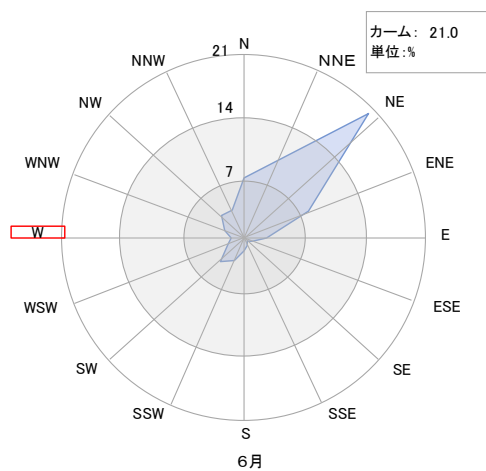
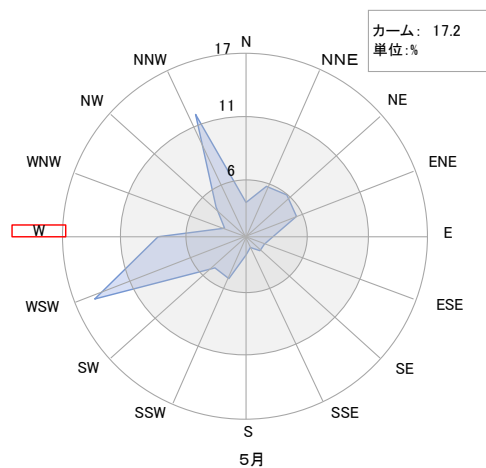
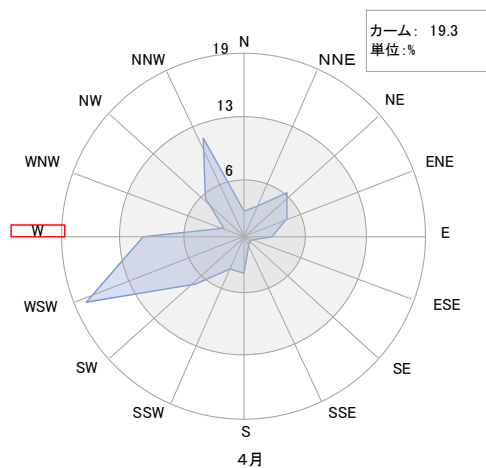
図Ⅳ－１０－２ 風速度数分布（米子局、R07 年度）



図Ⅳ－１０－３ 時間降水量（0.5 mm 以上）度数分布（境港局、R07 年度）

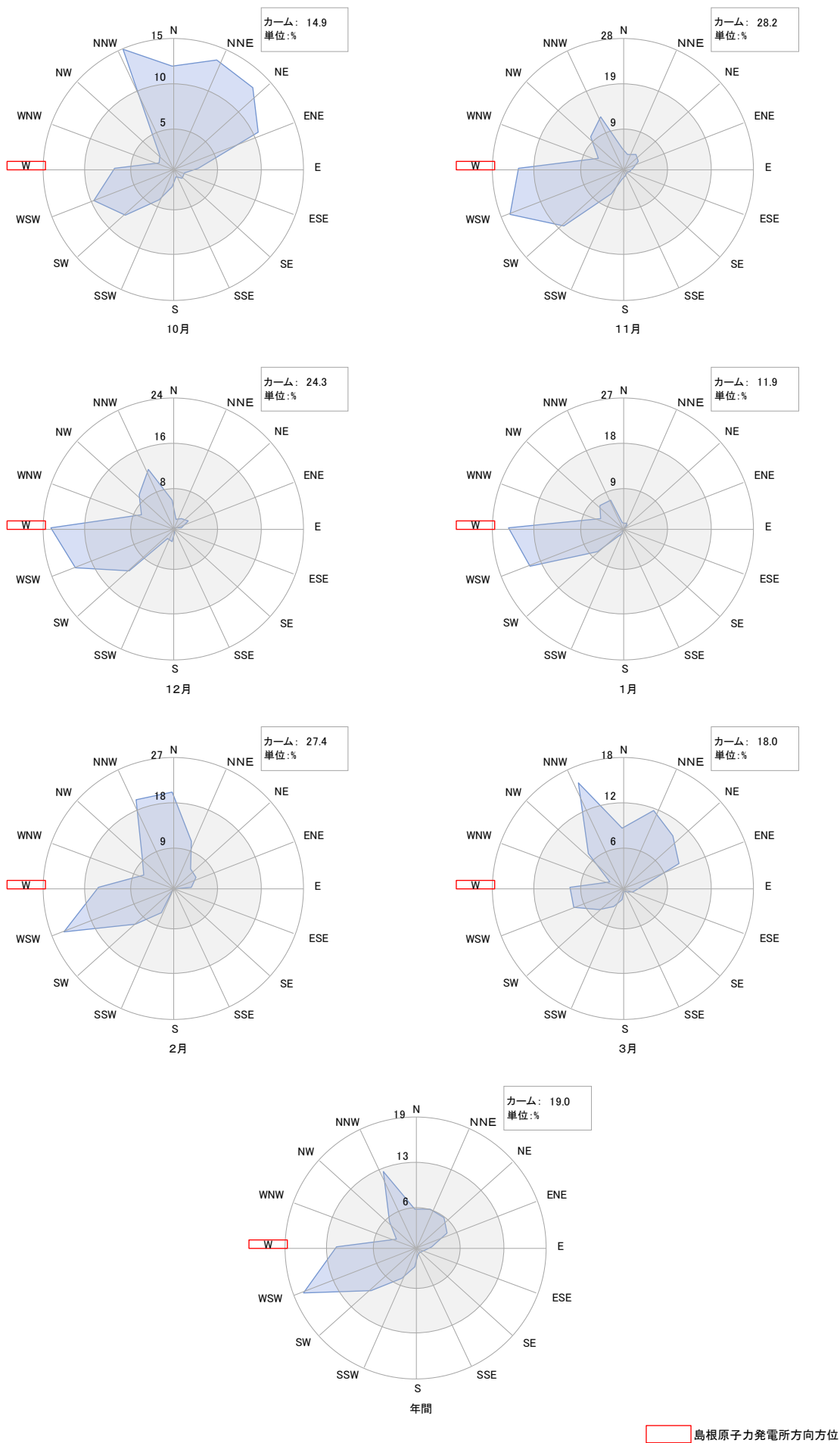


図Ⅳ－１０－４ 時間降水量（0.5 mm 以上）度数分布（米子局、R07 年度）

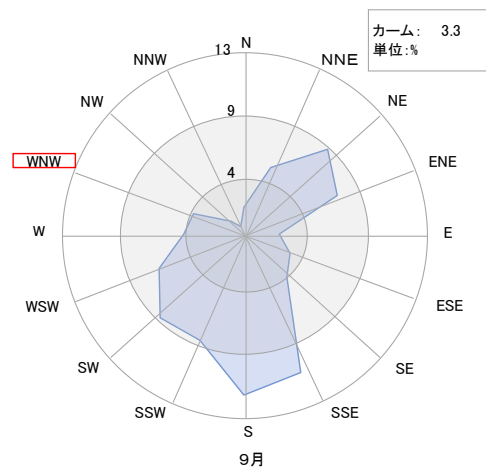
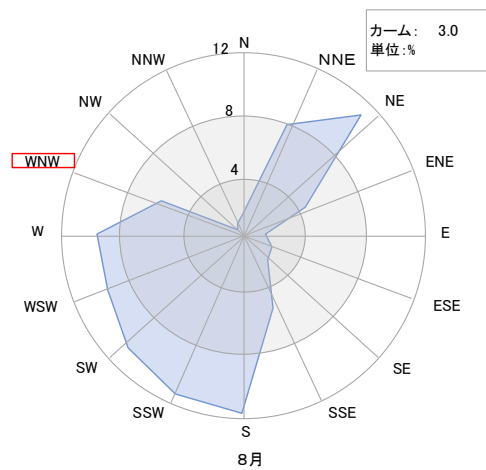
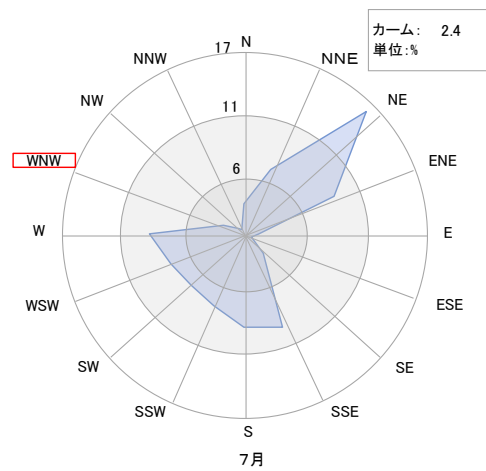
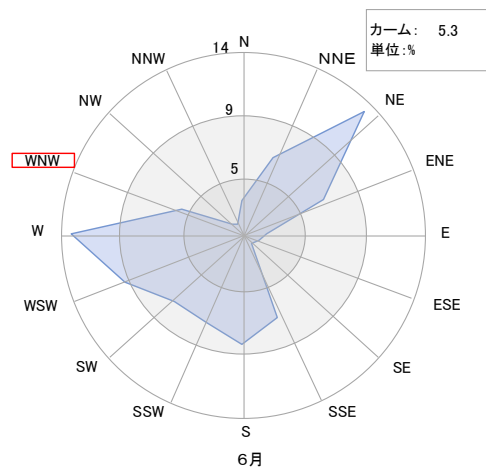
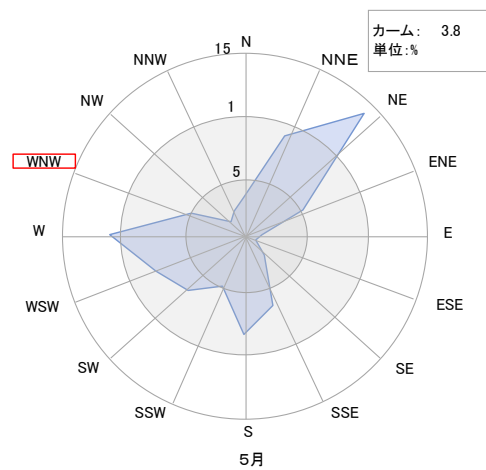
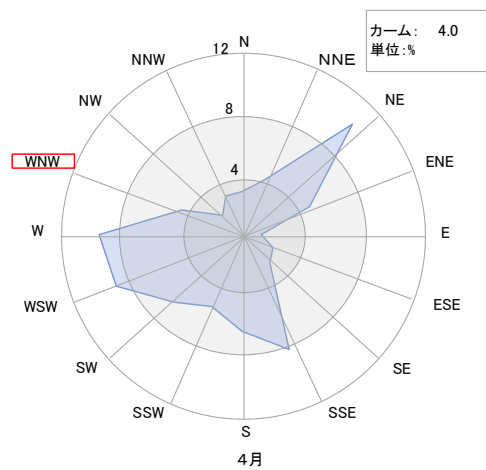


島根原子力発電所方向方位

図IV-10-5-1 風配図（境港局、R07年度）

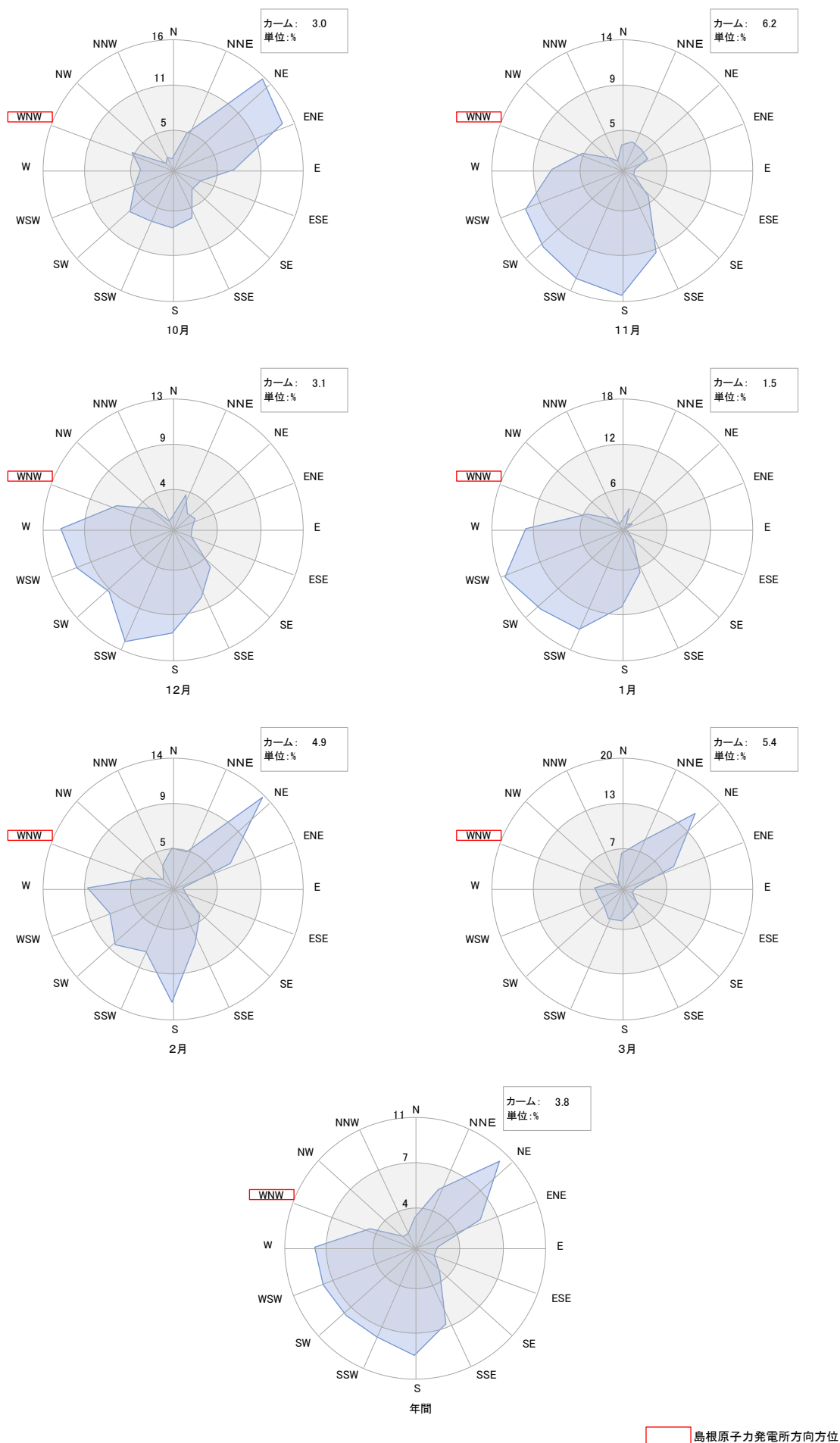


図IV－10－5－2 風配図（境港局、R07年度）



WNW 島根原子力発電所方向方位

図IV-10-6-1 風配図 (米子局、R07年度)



図IV－10－6－2 風配図（米子局、R07年度）

(2) 人形峠環境技術センター周辺

表Ⅳ－１０－３ 風速、気温、湿度、降水量（木地山局、R07年度）

測定月	風速 (m/s)		気温 (℃)			湿度 (%)		降水量 (mm)
	最高値	平均値	最高値	最低値	平均値	最低値	平均値	
4月	4.1	1.1	26.1	-1.6	10.7	26	74	88.0
5月	5.0	1.2	30.0	3.9	15.5	27	76	137.5
6月	4.4	1.1	32.7	11.3	21.4	27	81	161.0
7月	3.8	1.2	34.0	18.3	25.9	44	81	61.0
8月	2.5	0.7	34.2	16.7	25.2	44	87	141.0
9月	3.2	0.8	32.1	13.2	22.3	47	90	233.5
10月	3.5	0.7	26.7	3.4	15.8	44	90	238.5
11月	3.1	0.7	18.1	0.6	8.7	46	86	78.5
12月	5.2	0.8	16.5	-2.4	4.2	42	86	211.0
1月	4.2	0.8	12.8	-5.7	0.1	35	86	261.5
2月	4.4	0.9	16.8	-5.4	2.5	28	83	139.5
3月	3.6	0.9	21.2	-3.2	5.4	27	81	234.5
年間	5.2	0.9	34.2	-5.7	13.2	26	83	1,985.5

表Ⅳ－１０－４ 日射量、放射収支量、積雪深さ（木地山局、R07年度）

測定月	日射量 (MJ/m ²)		放射収支量 (MJ/m ²)			積雪深 (cm)		
	最高値	平均値	最高値	最低値	平均値	最高値	最低値	平均値
4月	1.79	0.31	1.43	-0.14	0.14	0	0	0
5月	1.78	0.33	1.99	-0.50	0.14	0	0	0
6月	1.88	0.36	1.71	-0.11	0.16	0	0	0
7月	1.85	0.41	1.64	-0.09	0.17	0	0	0
8月	1.72	0.29	1.56	-0.10	0.12	0	0	0
9月	1.66	0.22	1.37	-0.09	0.08	0	0	0
10月	1.41	0.18	1.09	-0.10	0.06	0	0	0
11月	1.19	0.15	1.99	-0.50	0.01	0	0	0
12月	1.03	0.10	0.61	-0.12	0.00	41	0	4
1月			0.47	-0.11	-0.01	107	5	57
2月			0.89	-0.15	0.02	141	20	75
3月			1.18	-0.13	0.09	20	0	4
年間	1.88	0.26	1.99	-0.50	0.08	141	0	11

注：日射量の1月以降はモニタリングシステム改修に伴い終了

表Ⅳ－１０－５ 感雷（木地山局、R07 年度）

測定月	感雷（回/h）		測定月	感雷（回/h）	
	最大値	平均値		最大値	平均値
4 月	0	0	10 月	0	0
5 月	0	0	11 月	1	0
6 月	0	0	12 月	1	0
7 月	1	0	1 月	1	0
8 月	3	0	2 月	3	0
9 月	1	0	3 月	1	0
			年間	3	0

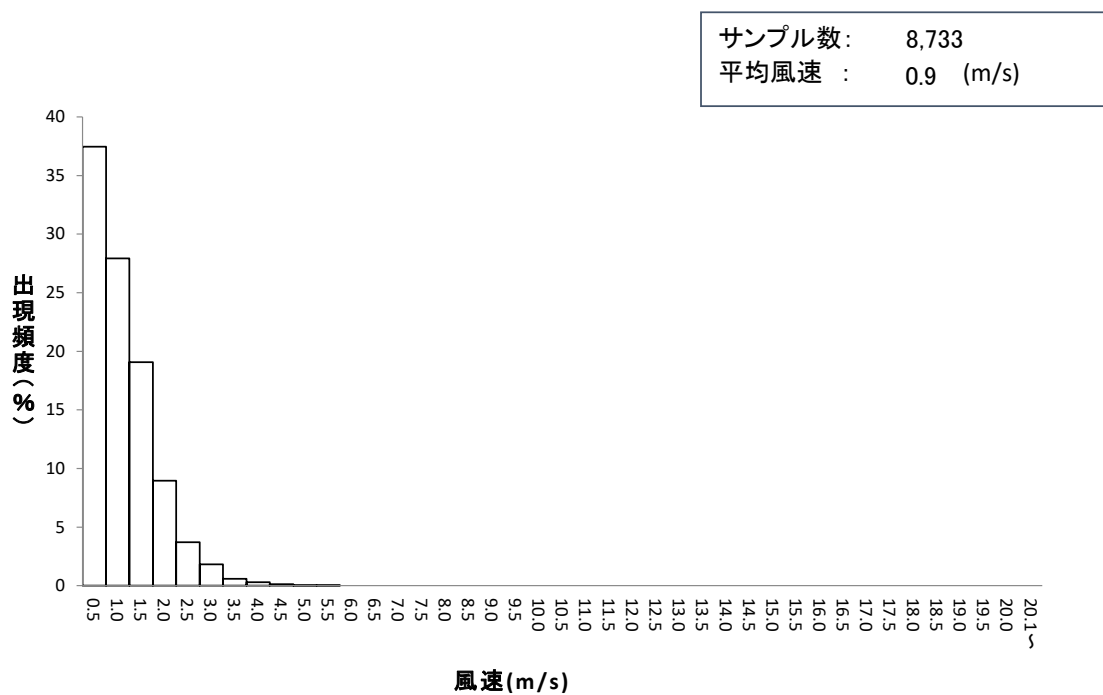
表Ⅳ－１０－６ 大気安定度出現頻度（木地山局、R07 年度）

（単位：上段 時間、下段 %）

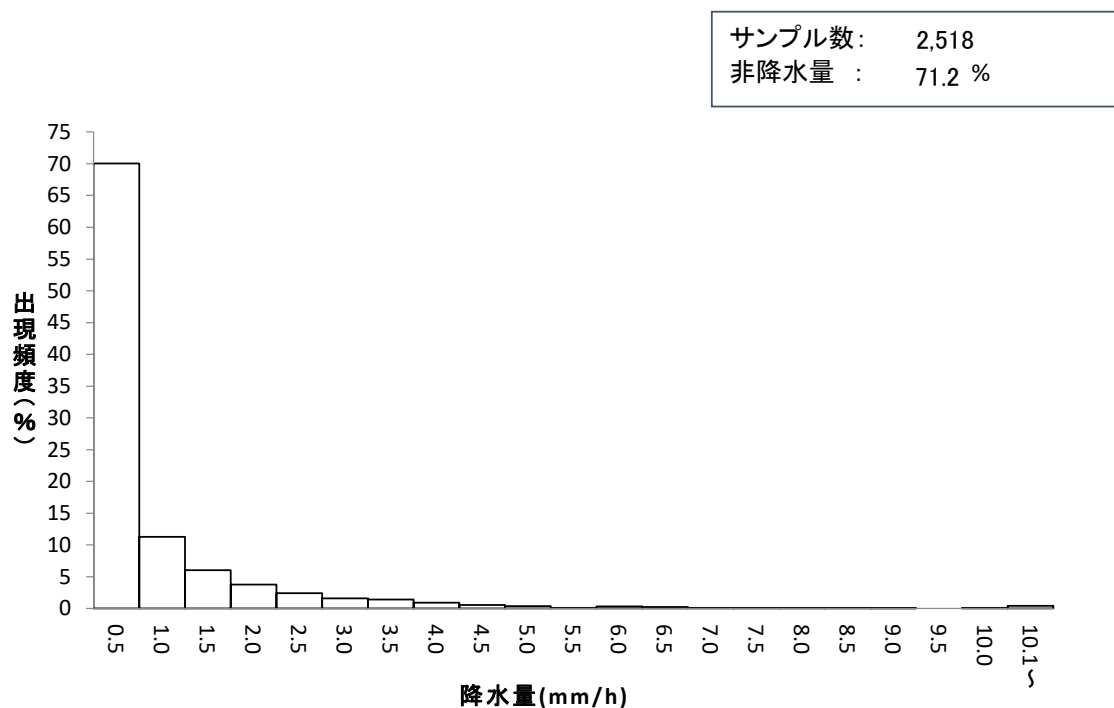
月 分類	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	年間
A	51 (7)	65 (9)	86 (12)	108 (15)	56 (8)	41 (6)	23 (3)	6 (1)	0 (0)				436 (7)
A-B	88 (12)	102 (14)	92 (13)	108 (15)	119 (16)	62 (9)	74 (10)	75 (11)	39 (5)				759 (12)
B	59 (8)	53 (7)	71 (10)	55 (7)	68 (9)	87 (12)	70 (9)	80 (11)	49 (7)				592 (9)
B-C	3 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	3 (0)	0 (0)				9 (0)
C	8 (1)	4 (1)	5 (1)	9 (1)	1 (0)	2 (0)	3 (0)	1 (0)	8 (1)				41 (1)
C-D	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				0 (0)
D	245 (34)	318 (43)	295 (41)	209 (28)	296 (40)	362 (50)	375 (50)	232 (32)	423 (57)				2755 (42)
E	5 (1)	16 (2)	1 (0)	27 (4)	1 (0)	4 (1)	2 (0)	1 (0)	9 (1)				66 (1)
F	2 (0)	9 (1)	4 (1)	9 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	2 (0)				27 (0)
G	259 (36)	168 (23)	166 (23)	219 (29)	203 (27)	161 (22)	196 (26)	315 (44)	214 (29)				1901 (29)
計	720 (100)	736 (100)	720 (100)	744 (100)	744 (100)	720 (100)	744 (100)	714 (100)	744 (100)				6586 (100)

A：強不安定、B：並不安定、C：弱不安定、D：中立、E：弱安定、F：並安定、G：強安定

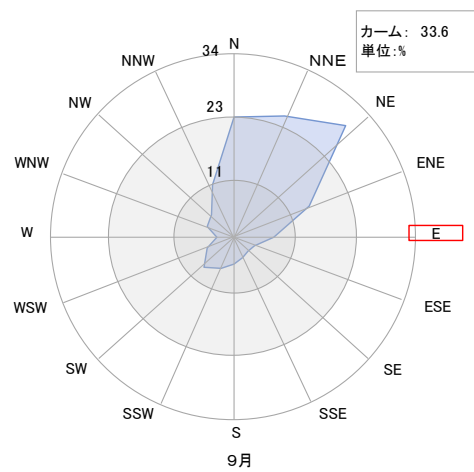
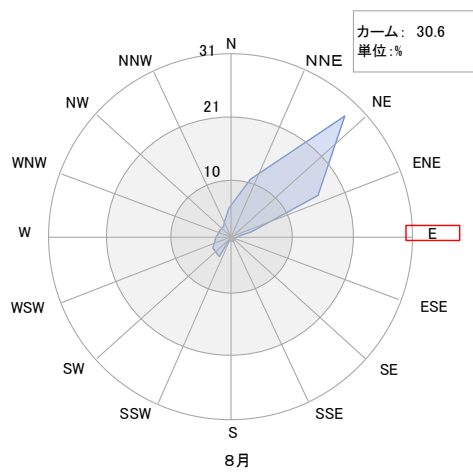
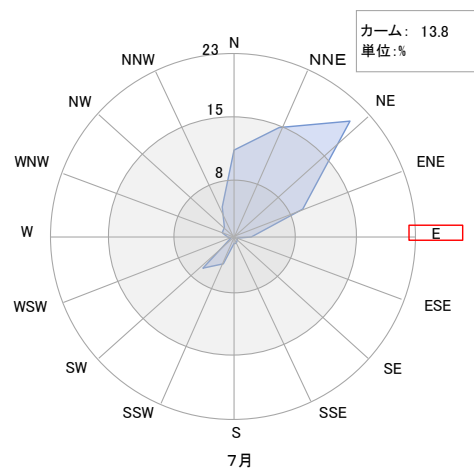
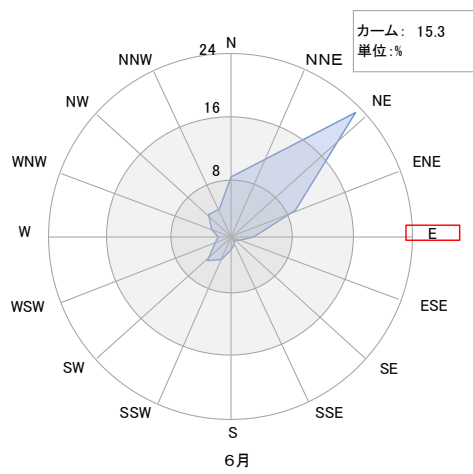
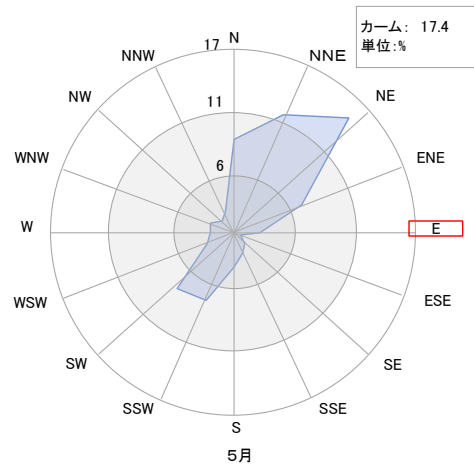
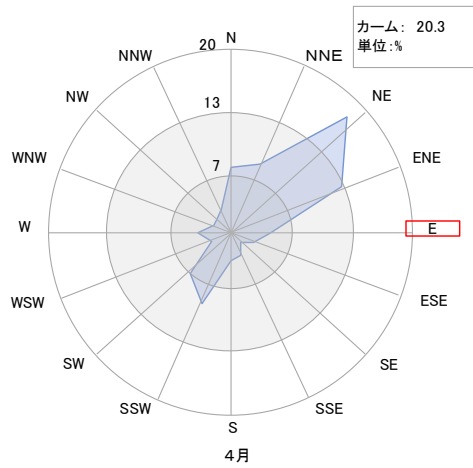
注：1 月以降はモニタリングシステム改修に伴い終了。（必要に応じて大気安定度を算出する）



図Ⅳ－１０－７ 風速度数分布（木地山局、R07 年度）

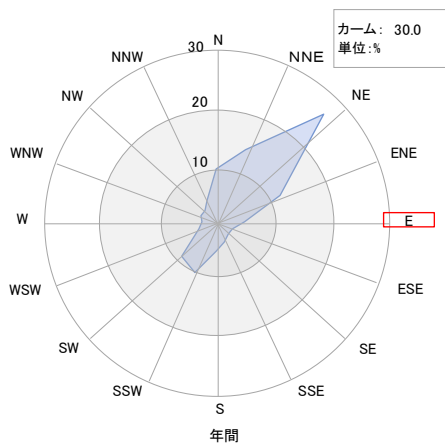
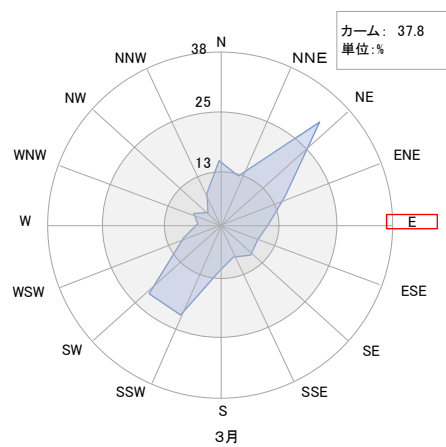
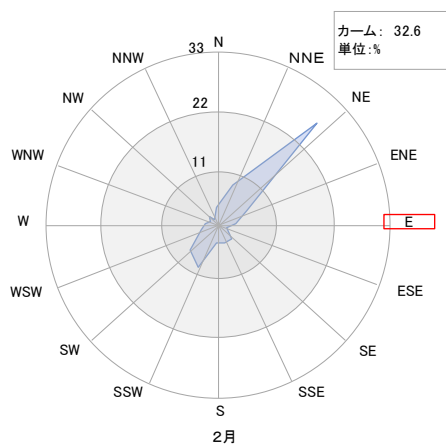
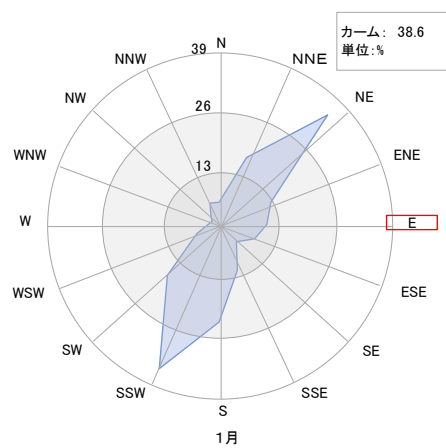
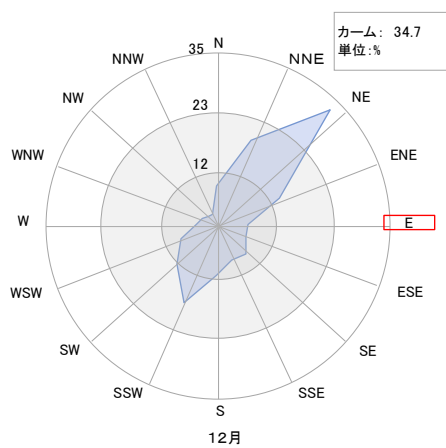
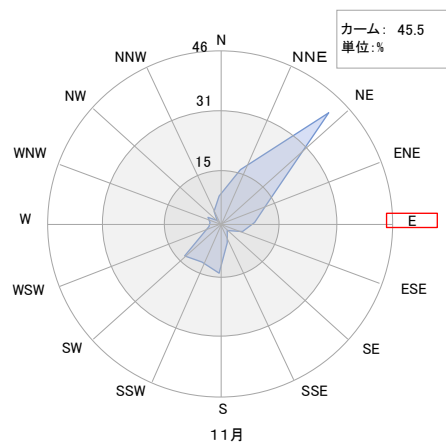
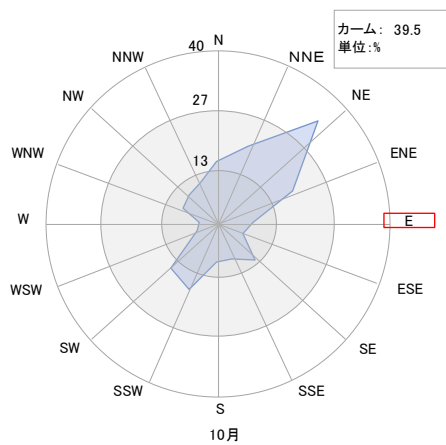


図Ⅳ－１０－８ 降水量（0.5 mm/h 以上）度数分布（木地山局、R07 年度）



人形峠環境技術センター方向方位

図Ⅳ－１０－９－１ 風配図（木地山局、R07 年度）



E 人形峠環境技術センター方向方位

図Ⅳ－１０－９－２ 風配図（木地山局、R07年度）

1 1 平常の変動幅の上限を超過した場合の要因調査等の方法

測定値が平常の変動幅の上限を超過した場合、図Ⅲ－１１－１及び図Ⅲ－１１－２に示すフローチャートに従い、施設内のエリアモニタ、モニタリングポスト等の異常値又は施設外への放出（管理放出を含む。）の状況について調査を行い、施設寄与の有無について判断する。

（１）空間放射線量率、大気中の浮遊じんの放射能濃度（連続測定）

ア 施設の測定値等の異常

施設内のエリアモニタ、モニタリングポスト等の異常値又は施設外への放出（管理放出を含む。）の状況の調査

イ 気象、自然放射性核種等の影響

- ・ 降雨等による自然放射線の変化による影響
- ・ 測定地点の周辺環境の変化による影響

ウ 測定器等の異常

- ・ 測定系及びデータ伝送処理系の健全性
- ・ 測定器の更新による影響

エ 外部要因（医療、産業等）の影響 ※大気中浮遊じん放射能濃度は除く

- ・ 医療・産業用放射性同位元素等の影響（放射性医薬品を投与された患者の接近、校正のための放射線源利用等）

（２）大気中及び環境試料中の放射能濃度の測定結果

ア 施設の測定値等の異常

施設内のエリアモニタ、モニタリングポスト等の異常値又は施設外への放出（管理放出を含む。）の状況の調査

イ 分析機器の異常（測定方法の誤り等を含む）

- ・ 試料採取の状況
- ・ 試料前処理、分析・測定の妥当性

ウ その他の要因

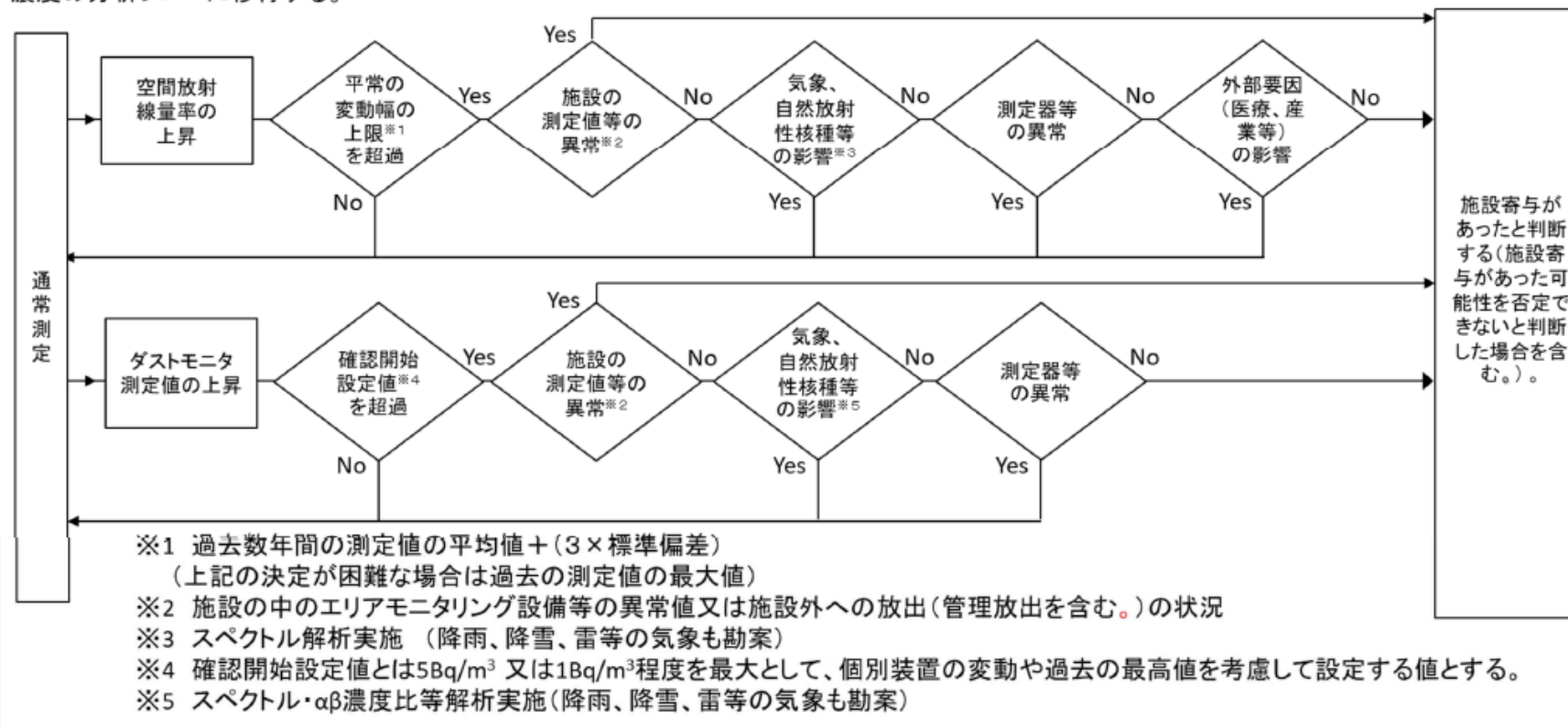
- ・ 核爆発実験等の影響
- ・ その他の原子力施設からの影響

（空間放射線量率）

空間放射線量率において平常の変動幅の超過があった場合、要因の調査を行い、要因を特定できない場合は、施設寄与があったと判断する（施設寄与があった可能性を否定できないと判断した場合を含む。）。

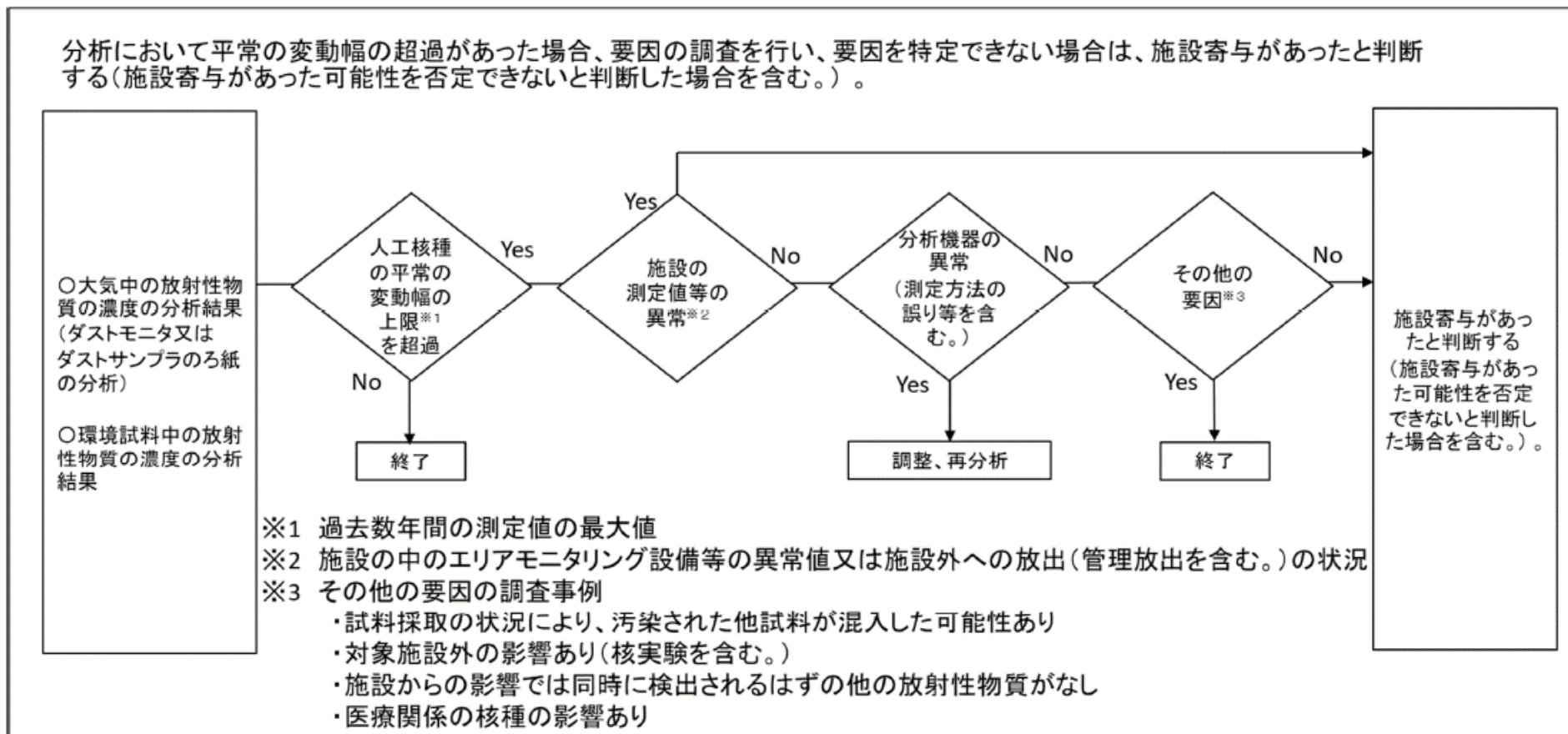
（大気中の放射性物質の濃度）

ダストモニタ測定値において確認開始設定値の超過があった場合、要因の調査を行い、要因を特定できない場合は、施設寄与があったと判断し（施設寄与があった可能性を否定できないと判断した場合を含む。）、当該時刻の大気中放射性物質を採取したフィルタを回収・分析し、放射性物質の濃度の分析フローに移行する。



図Ⅳ－１１－１ 空間放射線量率や浮遊じんの放射能が平常の変動幅の上限を超過した場合の要因調査のフローチャート

（引用）平常時モニタリングについて（原子力災害対策指針補足参考資料）令和３年１２月２１日改訂、原子力規制庁監視情報課



図Ⅳ－１１－２ 大気中及び環境試料中の放射性物質の濃度の分析結果が平常の変動幅の上限を超過した場合の要因調査のフローチャート

(引用) 平常時モニタリングについて (原子力災害対策指針補足参考資料) 令和３年１２月２１日改訂、原子力規制庁監視情報課

1 2 用語集

か行

ガンマ線スペクトロメトリー

ゲルマニウム半導体検出器を用いて、ガンマ線のエネルギー分布（スペクトル）を測定し、得られたスペクトルを解析することで、試料に含まれる放射性核種の種類と放射能を求める分析法。化学分離を必要とせず、壊変でガンマ線を放出する核種（Cs-137、Cs-134、I-131 等）を同時に定量することが可能。

空間放射線量率

対象とする空間の単位時間当たりの放射線量（空気吸収線量）。降水があると大気中に漂っている天然の放射性核種が地表に落ちてくるため一時的に数値が上昇し、積雪があると大地からの放射線が遮へいされて数値が低下するなど自然現象によっても変動する。なお、本報告書では、単位をマイクログレイ/時（ $\mu\text{Gy/h}$ ）又はナノグレイ/時（ nGy/h ）で表示している（マイクロは 100 万分の 1、ナノは 10 億分の 1 の意味）。

グレイ（Gy）

放射線のある物体に当てたとき、その物体が吸収した放射線のエネルギーを表す単位。1 グレイ（Gy）は、物体 1 キログラム（kg）当たり、1 ジュール（J）のエネルギーを吸収したときの放射線のエネルギーを表している（ $1\text{ Gy} = 1\text{ J/kg}$ ）。

蛍光ガラス線量計

銀活性化リン酸塩ガラスを使用した積算線量計。銀活性化リン酸塩ガラスは、放射線が照射された後に紫外線レーザーを当てると、照射された放射線量に比例して蛍光を放出する。この性質を利用し、蛍光量の測定値から放射線量を算出する測定方法。

検出下限値

ある程度の放射能又は放射能濃度をもつ対象を測定している場合に、統計学的な検討により、偶然の統計的揺らぎでないことを判別することができるような放射能又は放射能濃度の値。

本報告書では、「検出下限値未満」を「ND」と表記する。

さ行

ストロンチウム 90（Sr-90）

原子炉内でウラン等の核分裂により生成する放射性ストロンチウムの一種。カルシウムと類似した挙動をとり、体内に摂取すると骨組織に沈着するため、長期にわたる被ばく線量評価上、重要な核種。物理的半減期は約 29 年。

ストロンチウム分析

環境試料を化学的に処理し、Sr-90 の分離・精製後、壊変で生じる子孫核種のイットリウム 90（Y-90）の放

射能（ β 線）を測定して、Sr-90 の放射能を求める。

積算線量

一定期間、測定した空間放射線の積算量。本報告書では、約 3 か月間の測定値を 90 日間の値に換算して、マイクログレイ/90 日（ $\mu\text{Gy}/90\text{d}$ ）で表示している。

全 α 、全 β 放射能

試料から放出される α 線又は β 線をエネルギーで区分することなく測定した放射能。本調査では、ダストモニタにおいて、フィルター上に捕集した浮遊じんの全 α 又は全 β 放射能を測定している。全 α 及び全 β 放射能の比は、天然の放射性核種に起因するものであれば一定の幅の中で推移するため、事故等により人工放射性核種の影響を受ければ大きく変動する。

た行

定量下限値

ある分析方法によって分析種の定量が可能な最小量又は最小濃度。

本報告書では、「定量下限値」を「LOQ」と表記する。

トリチウム（H-3）

水素の放射性同位体であり、物理的半減期は約 12 年。宇宙線が大気中の窒素、酸素等と核反応して生成するほか、原子炉内でウランの核分裂等により生成する。天然に存在するトリチウムは、主に水（トリチウム水）として存在する。

トリチウム分析

試料を液体シンチレータ（液体発光物質）に溶かし、試料が出す放射線のエネルギーを吸収して発する蛍光を液体シンチレーションカウンタで測定してトリチウムの放射能を求める。

は行

フッ素

人形峠環境技術センターに保管されている六フッ化ウラン（ UF_6 ）が事故等により漏洩した場合、大気中の水分と反応して、フッ化水素（HF）が生成する。フッ化水素は、人の組織に強い腐食性を有し、皮膚、粘膜、呼吸器の障害等を引き起こすおそれがあり、本調査では、フッ素イオン濃度として測定を行っている。

ベクレル（Bq）

放射能を表す単位。1 ベクレル（Bq）は、1 秒間に 1 個の原子核が壊変する物質の放射能を表す。

放射性核種

放射能を持つ元素。また、放射性核種を含む物質を一般的に放射性物質と言う。

放射線

放射性核種から放出される高速の粒子や高いエネルギーを持った電磁波などのことを言い、主なものに、アルファ線（ α 線）、ベータ線（ β 線）、ガンマ線（ γ 線）がある。 α 線は、陽子 2 個と中性子 2 個からなるヘリウムの原子核と同じ構造の粒子であり、物質を透過する力は弱く、皮膚の表面や紙一枚程度で止める（遮へいする）ことができる。ベータ線は、原子核から飛び出した高速の電子であり、物質を透過する力は α 線よりは強いが γ 線よりは弱く、薄いアルミニウム板等で止める（遮へいする）ことができる。ガンマ線は、励起状態にある原子核が安定状態になるときに放出される電磁波であり、物質を透過する力は β 線より強く、遮へいするためには厚い鉛やコンクリートが必要である。

放射能

放射性核種が放射線を出して壊変する性質又は強さ（壊変の起こりやすさ）。

ま行

モニタリングシステム

空間放射線量率等を監視するため、モニタリングポスト等の測定データを収集するシステム。本県では、島根県、岡山県、事業者からも測定データの提供を受け収集を行っている。

モニタリング車

空間放射線量率測定装置（モニタリングポスト）、浮遊じん採取装置、全 α ・全 β 検出器、気象観測装置等を搭載したモニタリング専用の車両。

モニタリングポスト

空間放射線量率を連続測定するための装置。可搬型モニタリングポストは、持ち運び可能な構造となっているモニタリングポストであり、商用電源のほか、バッテリーでも稼働可能。

や行

預託実効線量

体内に放射性核種が取り込まれると、放射性核種が壊変や排出でなくなるまで体内の組織及び臓器が被ばくすることとなる。被ばくが長期に及んだ場合、実際の被ばく線量を年ごとに評価するのは現実的ではないため、長期にわたって受ける線量を摂取時点に受けたものと見なす手法がとられる。このとき、50 年間にわたる等価線量の総量を預託等価線量といい、各組織・臓器の預託等価線量に組織加重係数を乗じた後、合計した量を預託実効線量という。

令和 7 年度環境放射線等測定結果
(島根原子力発電所及び人形峠環境技術センター周辺)
令和 8 年 9 月発行

編集・発行

鳥取県危機管理部原子力安全対策課

〒680-8570 鳥取県鳥取市東町一丁目 271

TEL 0857-26-7854

鳥取県危機管理部・生活環境部原子力環境センター

〒682-0704 鳥取県東伯郡湯梨浜町南谷 526-1

TEL 0858-35-5416

